

## シラバス参照

教員名	室城 隆之(1-0203)(ムロキ タカユキ)
履修開始年次	3年生
単位	2
学期	後期
科目名	犯罪心理学
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3 群)

副題																													
授業の概要	最初に、犯罪の原因に関する生物学的、社会的、心理学的諸理論について学習する。次に、犯罪者の捜査、司法手続き、処遇、立ち直りという一連のプロセスにおいて心理学が果たす役割と心理的支援、また、犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。さらに、家庭裁判所で扱われる家事事件とそれに対する心理的支援についても学ぶ。最後に、各種犯罪の特徴についても考察する。																												
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシー「関連するとともに、人間心理学の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシー「関」に準ずる。 具体的な到達目標は、以下のとおりである。 (1)犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。 (2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。																												
準備学習(予習・復習)の内容	予習: 毎回、指定の教科書・参考書の該当箇所を読むこと(100分程度)。 復習: 講義で配布したプリント等を読み、理解を確かなものにする(100分程度)。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法、研究と倫理</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>犯罪の原因(1)生物学的要因</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>犯罪の原因(2)社会的要因</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>犯罪の原因(3)心理学的要因、環境との相互作用、犯罪原因の統合的理解</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>犯罪捜査と心理学</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>非行・犯罪者の処遇・矯正</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>家事事件と心理的支援</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>被害者支援と犯罪予防</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>犯罪各論(1)暴力犯罪、殺人</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>犯罪各論(2)性犯罪、放火</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>犯罪各論(3)窃盗等の財産犯、その他の犯罪</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>犯罪各論(4)少年非行</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>犯罪者の立ち直り まとめ～司法・犯罪心理学の課題</td> </tr> </table>	第1回	司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法、研究と倫理	第2回	犯罪の原因(1)生物学的要因	第3回	犯罪の原因(2)社会的要因	第4回	犯罪の原因(3)心理学的要因、環境との相互作用、犯罪原因の統合的理解	第5回	犯罪捜査と心理学	第6回	非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に	第7回	非行・犯罪者の処遇・矯正	第8回	家事事件と心理的支援	第9回	被害者支援と犯罪予防	第10回	犯罪各論(1)暴力犯罪、殺人	第11回	犯罪各論(2)性犯罪、放火	第12回	犯罪各論(3)窃盗等の財産犯、その他の犯罪	第13回	犯罪各論(4)少年非行	第14回	犯罪者の立ち直り まとめ～司法・犯罪心理学の課題
第1回	司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法、研究と倫理																												
第2回	犯罪の原因(1)生物学的要因																												
第3回	犯罪の原因(2)社会的要因																												
第4回	犯罪の原因(3)心理学的要因、環境との相互作用、犯罪原因の統合的理解																												
第5回	犯罪捜査と心理学																												
第6回	非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に																												
第7回	非行・犯罪者の処遇・矯正																												
第8回	家事事件と心理的支援																												
第9回	被害者支援と犯罪予防																												
第10回	犯罪各論(1)暴力犯罪、殺人																												
第11回	犯罪各論(2)性犯罪、放火																												
第12回	犯罪各論(3)窃盗等の財産犯、その他の犯罪																												
第13回	犯罪各論(4)少年非行																												
第14回	犯罪者の立ち直り まとめ～司法・犯罪心理学の課題																												
成績評価方法・基準	到達目標(1)「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける」及び「(2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ」について、毎回の講義終了時に提出するリアクシヨンペーパー(45%)と定期試験(55%)を合計して評価する。																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『コンパクト犯罪心理学』	河野莊子・岡本英生	北大路書房	2013	<a href="https://www.amazon.co.jp/dp/978-4762827921">978-4762827921</a>
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか』	大淵憲一	培風館	2006	
	2	『Progress & Application 犯罪心理学』	越智啓太	サイエンス社	2012	
その他						
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事した経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	室城 隆之(T-0203)(ムロキ タカユキ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	健康心理アセスメント
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3群)

副題	心と身体の健康の科学的評価方法を学ぶ																												
授業の概要	健康心理アセスメントの知識と方法を習得することを目的とする。前半は、テキストに沿った学習により、健康心理アセスメントの基礎的な知識と実施方法の習得を図る。後半は、健康心理学の一つである交流分析及びゲシュタルト療法を採り上げ、その理論とアセスメントの方法を習得する。																												
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる」「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標としては、以下のとおりである。 (1)健康心理学のアセスメントについて、基礎的な知識と実践方法を理解する。 (2)健康心理学の一つである交流分析及びゲシュタルト療法について、実践的アセスメントの理論と実践を学ぶ。																												
準備学習(予習・復習)の内容	予習: 毎回、指定の教科書・参考書の該当箇所を読むこと(100分程度)。 復習: 講義で配布したプリント等を読み、理解を確実なものにすること(100分程度)。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>健康心理アセスメントの意義、役割、ターゲット 本講義の目的とスケジュール</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>健康心理アセスメントの方法、必要条件と留意点</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>アセスメントにおける倫理的諸問題 パーソナリティのアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ストレスと情動のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>生活態度・習慣のアセスメント、社会関係のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(1)交流分析とは・自我状態のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(2)様々な交流のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(3)脚本のアセスメント①脚本の内容と形成プロセス</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(4)脚本のアセスメント②脚本はどのように現われるか</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(5)脚本化された行動のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(6)TA・ゲシュタルト療法(再決断療法)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(7)人格適応論</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>健康心理アセスメントの実際－ゲシュタルト療法</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>	第1回	健康心理アセスメントの意義、役割、ターゲット 本講義の目的とスケジュール	第2回	健康心理アセスメントの方法、必要条件と留意点	第3回	アセスメントにおける倫理的諸問題 パーソナリティのアセスメント	第4回	ストレスと情動のアセスメント	第5回	生活態度・習慣のアセスメント、社会関係のアセスメント	第6回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(1)交流分析とは・自我状態のアセスメント	第7回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(2)様々な交流のアセスメント	第8回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(3)脚本のアセスメント①脚本の内容と形成プロセス	第9回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(4)脚本のアセスメント②脚本はどのように現われるか	第10回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(5)脚本化された行動のアセスメント	第11回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(6)TA・ゲシュタルト療法(再決断療法)	第12回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(7)人格適応論	第13回	健康心理アセスメントの実際－ゲシュタルト療法	第14回	まとめ
第1回	健康心理アセスメントの意義、役割、ターゲット 本講義の目的とスケジュール																												
第2回	健康心理アセスメントの方法、必要条件と留意点																												
第3回	アセスメントにおける倫理的諸問題 パーソナリティのアセスメント																												
第4回	ストレスと情動のアセスメント																												
第5回	生活態度・習慣のアセスメント、社会関係のアセスメント																												
第6回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(1)交流分析とは・自我状態のアセスメント																												
第7回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(2)様々な交流のアセスメント																												
第8回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(3)脚本のアセスメント①脚本の内容と形成プロセス																												
第9回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(4)脚本のアセスメント②脚本はどのように現われるか																												
第10回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(5)脚本化された行動のアセスメント																												
第11回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(6)TA・ゲシュタルト療法(再決断療法)																												
第12回	健康心理アセスメントの実際－交流分析のアセスメント(7)人格適応論																												
第13回	健康心理アセスメントの実際－ゲシュタルト療法																												
第14回	まとめ																												
成績評価方法・基準	健康心理アセスメント及び交流分析、ゲシュタルト療法についての基礎的な知識と実践方法の理解度を、毎回実施するアクションペーパー(45%)および最終試験(55%)により評価する。																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『健康心理アセスメント概論』	日本健康心理学会	実務教育出版	2002	<a href="#">978-4788960923</a>
	2	『生きづらさを手放す:自分らしさを取り戻す再決断療法』	室城 隆之	春秋社	2017	<a href="#">978-4393365519</a>
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『TAベシックス』	門本泉	日本TA協会	2003	
その他	参考書の入手方法については、講義の際に説明する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事した経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	室城 隆之(T-0203)(ムロキ タカユキ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	心理的アセスメント/心理アセスメント
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3群)

副題	「こころ」の様々な科学的評価方法を学ぶ。	
授業の概要	様々な心理アセスメントの知識と方法を修得することを目的とする。具体的には ①心理アセスメントの目的および倫理 ②心理アセスメントの観点および展開 ③心理アセスメントの方法(種類, 成り立ち, 特徴, 意義及び限界) ④適切な記録及び報告 に関する知識を学ぶ。	
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる」「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標としては、以下のとおりである。 ①心理アセスメントの目的および倫理について理解している。 ②心理アセスメントの観点および展開について修得している。 ③心理アセスメントの方法(種類, 成り立ち, 特徴, 意義及び限界)についての知識と方法を修得している。 ④適切な記録及び報告について修得している。	
準備学習 (予習・復習) の内容	予習: 毎回、指定のテキストの該当箇所を読むこと(100分程度)。 復習: 講義で配布したプリント等を読み、理解を確実なものにすること(100分程度)。	
スケジュール	第1回	心理アセスメントの歴史, 定義, 目的および倫理
	第2回	心理アセスメントの方法(面接法, 観察法, 心理検査法) 面接によるアセスメント
	第3回	トリアージ 知的障害・発達障害のアセスメント
	第4回	精神医学的アセスメント
	第5回	発達とパーソナリティのアセスメント
	第6回	心理療法のためのアセスメント総論(関係性を中心に)
	第7回	精神力動的(精神分析的)心理療法のアセスメント
	第8回	認知行動療法のアセスメント
	第9回	人間性心理学的心理療法(主として交流分析)のアセスメント 家族療法・集団療法のアセスメント
	第10回	心理検査によるアセスメント総論 (心理検査の歴史, 目的, 種類, テストバッテリー, 信頼性と妥当性)
	第11回	知能検査, 発達検査, 認知機能検査, 神経心理学検査
	第12回	質問紙法(特徴と種類)
	第13回	投映法(特徴と種類)
	第14回	心理アセスメントの記録と報告

成績評価方法・基準	精神医学および心理療法におけるアセスメント(面接・心理検査)についての基礎的な知識と実践方法の理解度を毎回実施するリアクション・ペーパー(45%)、最終レポート(55%)によって評価する。				
テキスト	No	書名	著者名	出版社	ISBN
	1	『臨床心理アセスメントの基礎』	沼 初枝	ナカニシヤ出版	2009 <a href="#">978-4779504037</a>
参考書	No	書名	著者名	出版社	ISBN
	1	『心理のための精神医学概論』	沼 初枝	ナカニシヤ出版	2014 <a href="#">978-4779508950</a>
	2	『精神科臨床における心理アセスメント入門』	津川 律子	金剛出版	2009 <a href="#">978-4772410793</a>
	3	『ガイダンスとカウンセリング』	小谷 英文	北樹出版	1993 <a href="#">978-4893842930</a>
その他					
参考URL					
画像					
ファイル					

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床(アセスメント、心理教育、カウンセリング)及び夫婦・家族臨床に従事した経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	室城 隆之(T-0203)(ムロキ タカユキ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	カウンセリング概論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3群)

副題	カウンセラーとクライアントの交流の場としてのカウンセリングを学ぶ					
授業の概要	この科目は、臨床心理学の実践としてのカウンセリングについて、その基礎となる諸理論を体系的に学ぶことを目的とする。また、カウンセリング理論の1つである交流分析理論について詳細に学ぶことによって、理論を実際に活用することができるようになることを目標とする。パワーポイントを用いた講義が中心となるが、演習を用いた体験的な学習や、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。なお、毎回の講義開始時に資料を配布する。					
到達目標	この科目は、人間心理学科のディプロマポリシーである「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる。」および「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる。」に関連しており、以下を到達目標とする。 1. カウンセリングの構造、理論を概説できる。 2. カウンセリングの理論の1つである交流分析の理論および技法について概説し、活用できる。					
準備学習(予習・復習)の内容	予習としてテキスト・参考文献を読むなどして、各回のテーマに関連する学習をしておく(100分)。講義終了後の出来るだけ早い時間に、毎回配布する資料を再読し、復習をする(100分)。					
スケジュール	第1回	カウンセリングとは何か				
	第2回	カウンセリングの構造とプロセス				
	第3回	カウンセリングの技法				
	第4回	精神分析療法				
	第5回	認知・行動療法				
	第6回	ヒューマニスティック・アプローチ				
	第7回	家族療法と集団精神療法				
	第8回	交流分析①自我状態				
	第9回	交流分析②やりとり分析				
	第10回	交流分析③脚本分析				
	第11回	交流分析④脚本化された行動				
	第12回	ゲシュタルト療法				
	第13回	再決断療法				
	第14回	まとめ				
成績評価方法・基準	毎回の講義終了時に提出するリアクションペーパー(45%)および最終レポート(55%)によって評価する。					
テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN

	1	『「生きづらさを手放す」-自分らしさを取り戻す再決断』	室城隆之	春秋社	2017	<a href="#">978-4-393-36551-9</a>
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『カウンセリングの理論』	國分康幸	誠信書房	1980	<a href="#">4-414-40308-1</a>
その他	本科目は公認心理師の受験資格を得るために必要な科目ではないが、公認心理師を目指す学生は学んでおくことが望ましい。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事した経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	室城 隆之(T-0203)(ムロキ タカユキ) 前 理津子(T-0204)(アザミ リツコ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	感情・人格心理学
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3群)

副題																													
授業の概要	公認心理師の受験資格を得るために必要となる科目の1つである。感情と人格に関する理論等の基礎的知識を習得する。																												
到達目標	この科目は人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング、身体表現等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連しており、以下4点を目標とする。 ・感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。 ・感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 ・人格の概念及び形成過程について概説できる。 ・人格の種類、特性等について概説できる。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	予習として各回のテーマに関連する本を読んでおく(100分)。一日の講義終了後の出来るだけ早い時間に、ノートを整理し、復習をする(100分)。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>ガイダンス、感情の基礎</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>感情の生物学的基礎</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>感情の理論</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>感情と認知、行動</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>感情の発達・感情の個人差</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>感情と心身の健康</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>感情心理学のまとめと試験</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>人格とは何か(人格の概念)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>人格はどのように作られるか(人格の形成過程)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>人格の理論—類型論、特性論、構造論</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>人格の測定と理解</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>パーソナリティスタイルと人格適応論</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>人格の障害</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>人格心理学のまとめと試験</td></tr> </table>	第1回	ガイダンス、感情の基礎	第2回	感情の生物学的基礎	第3回	感情の理論	第4回	感情と認知、行動	第5回	感情の発達・感情の個人差	第6回	感情と心身の健康	第7回	感情心理学のまとめと試験	第8回	人格とは何か(人格の概念)	第9回	人格はどのように作られるか(人格の形成過程)	第10回	人格の理論—類型論、特性論、構造論	第11回	人格の測定と理解	第12回	パーソナリティスタイルと人格適応論	第13回	人格の障害	第14回	人格心理学のまとめと試験
第1回	ガイダンス、感情の基礎																												
第2回	感情の生物学的基礎																												
第3回	感情の理論																												
第4回	感情と認知、行動																												
第5回	感情の発達・感情の個人差																												
第6回	感情と心身の健康																												
第7回	感情心理学のまとめと試験																												
第8回	人格とは何か(人格の概念)																												
第9回	人格はどのように作られるか(人格の形成過程)																												
第10回	人格の理論—類型論、特性論、構造論																												
第11回	人格の測定と理解																												
第12回	パーソナリティスタイルと人格適応論																												
第13回	人格の障害																												
第14回	人格心理学のまとめと試験																												
成績評価 方法・基準	前半の感情心理学に関しては、リアクションペーパーの提出による学習意欲20%、感情に関する理論及び感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響についての理解を問うテスト(第7回に実施)30%で評価する。 後半の人格心理学に関しては、リアクションペーパーの提出による学習意欲リアクションペーパー20%と人格の概念、形成過程、人格に関する理論(類型、特性、構造)、人格の測定、人格の障害についての理解を問うテスト(第14回に実施)30%で評価する。																												
テキスト																													

参考書	
その他	
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
合同担当教員の室城教授は家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事した経験がある。この経験をもとに8回から14回のスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	堀内 美穂子(D-0104)(ホリウチ ミホコ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	精神保健
年度	2019
学校区分	大学
科目群	人間心理(2・3群)

副題																													
授業の概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代の精神保健の意義・課題を考える。また、ライフサイクルからみた発達課題を知り、地域で展開される精神保健活動について、社会動向を踏まえて理解する。																												
到達目標	1. 精神の健康についての基本的な考えと歴史を理解する。 2. 地域における精神保健の諸課題と地域の現状を理解する。 3. 精神保健の知識を活用し、地域共生社会づくりに貢献する力をつける。これは、社会学部の「自分の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションができる」「現代の社会における諸課題の解決を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」「やさしさと温かさに満ち、総合的な判断能力を持つことができる」、人間心理学科の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに基づく。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	配布された資料を十分復習し、時折提出を求められるリアクションペーパーにおいて、自分の視点や課題への考えを表現し提出すること。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション -授業内容の紹介、精神保健の歴史と課題-</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ライフサイクルからみた精神保健① -エリクソンの発達段階(出生前～学童期)-</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ライフサイクルからみた精神保健② -エリクソンの発達課題(思春期～青年期～老年期)-</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>各種健康障害と精神保健</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>精神の健康と支援</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>精神保健における家族アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学校精神保健</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>青年期精神保健</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>成人期精神保健</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>障害者就労と精神保健</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>老年期精神保健</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>精神保健における課題と対策① -うつ・アルコール・薬物に関する問題-</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>精神保健における課題と対策② -認知症疾患・ターミナルケアに関する問題-</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>精神保健における課題と対策③ -災害時精神保健と地域ネットワークづくり-</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション -授業内容の紹介、精神保健の歴史と課題-	第2回	ライフサイクルからみた精神保健① -エリクソンの発達段階(出生前～学童期)-	第3回	ライフサイクルからみた精神保健② -エリクソンの発達課題(思春期～青年期～老年期)-	第4回	各種健康障害と精神保健	第5回	精神の健康と支援	第6回	精神保健における家族アプローチ	第7回	学校精神保健	第8回	青年期精神保健	第9回	成人期精神保健	第10回	障害者就労と精神保健	第11回	老年期精神保健	第12回	精神保健における課題と対策① -うつ・アルコール・薬物に関する問題-	第13回	精神保健における課題と対策② -認知症疾患・ターミナルケアに関する問題-	第14回	精神保健における課題と対策③ -災害時精神保健と地域ネットワークづくり-
第1回	オリエンテーション -授業内容の紹介、精神保健の歴史と課題-																												
第2回	ライフサイクルからみた精神保健① -エリクソンの発達段階(出生前～学童期)-																												
第3回	ライフサイクルからみた精神保健② -エリクソンの発達課題(思春期～青年期～老年期)-																												
第4回	各種健康障害と精神保健																												
第5回	精神の健康と支援																												
第6回	精神保健における家族アプローチ																												
第7回	学校精神保健																												
第8回	青年期精神保健																												
第9回	成人期精神保健																												
第10回	障害者就労と精神保健																												
第11回	老年期精神保健																												
第12回	精神保健における課題と対策① -うつ・アルコール・薬物に関する問題-																												
第13回	精神保健における課題と対策② -認知症疾患・ターミナルケアに関する問題-																												
第14回	精神保健における課題と対策③ -災害時精神保健と地域ネットワークづくり-																												
成績評価 方法・基準	不定期に実施されるリアクションペーパーの評価が20%、定期試験 80%																												
テキスト																													
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN																						
No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN																								

	1	『新・精神保健福祉士養成講座第3版2 精神保健の課題と支援』	(編集)一般社団法人日本ソ シヤルワーク教育学校連盟	中央法規	2012	<a href="https://www.kougicd.com/">978-4-8058-5595-9</a>
その他						
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、産能大学メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。





	1	『公認心理師の基礎と実践1 公認心理師の職責』	野島 一彦	遠見書房	2018	<a href="#">978-4-86616-051-1</a>
参考書						
その他						
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、産能大学メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	崎本 武志(T-0304)(サキモト タケシ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	総合旅行講座II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題																													
授業の概要	旅行に関するあらゆる事柄について総合的に学ぶことを目的とする。総合旅行業務取扱管理者試験、国内旅行業務取扱管理者試験、その他にも地理、鉄道、世界遺産などの分野における資格試験対策も行う。本講座では総合旅行講座Ⅰが主に国内を取り扱うのに対し、こちらは主に海外分野を取り扱う。																												
到達目標	観光および旅行に関する資格に関する学習を通して基礎的かつ総合的な知識を習得し、業界でも役に立つだけの実務知識を身につけることを目標とする。 評価:出席および毎回の小テスト・小レポート提出50%、学期末テスト40%、講義に対する積極的な取り組み姿勢10%																												
準備学習 (予習・復習) の内容	各自目指すべき方向に向かって取り組む内容を決定し、これらに関する学習を行う。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンスおよび学習計画作成—観光関連等の資格について概説する</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>学習計画完成—各自目指す資格試験についての計画を完成させる</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>旅行関連に関する基礎知識①旅行業法について理解する</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>旅行関連に関する基礎知識②旅行業約款について理解する</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>旅行関連に関する基礎知識③海外旅行地理に関する理解および小テスト</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>旅行関連に関する基礎知識④海外航空運賃に関する理解および小テスト</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>旅行関連に関する応用知識①出入国法令について理解する</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>旅行関連に関する応用知識②海外旅行実務について理解する</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>旅行関連に関する応用知識③海外の交通機関について理解する</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>旅行関連に関する応用知識④海外旅行全般について理解する</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>世界観光地理に関する基礎知識—日本および世界の自然遺産について理解する</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>世界観光地理に関する応用知識—日本および世界の文化遺産について理解する</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>総括的な問題演習—旅行業法・旅行業約款・海外旅行地理・運賃料金に関する問題演習</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>まとめ・総合テスト</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンスおよび学習計画作成—観光関連等の資格について概説する	第2回	学習計画完成—各自目指す資格試験についての計画を完成させる	第3回	旅行関連に関する基礎知識①旅行業法について理解する	第4回	旅行関連に関する基礎知識②旅行業約款について理解する	第5回	旅行関連に関する基礎知識③海外旅行地理に関する理解および小テスト	第6回	旅行関連に関する基礎知識④海外航空運賃に関する理解および小テスト	第7回	旅行関連に関する応用知識①出入国法令について理解する	第8回	旅行関連に関する応用知識②海外旅行実務について理解する	第9回	旅行関連に関する応用知識③海外の交通機関について理解する	第10回	旅行関連に関する応用知識④海外旅行全般について理解する	第11回	世界観光地理に関する基礎知識—日本および世界の自然遺産について理解する	第12回	世界観光地理に関する応用知識—日本および世界の文化遺産について理解する	第13回	総括的な問題演習—旅行業法・旅行業約款・海外旅行地理・運賃料金に関する問題演習	第14回	まとめ・総合テスト
第1回	ガイダンスおよび学習計画作成—観光関連等の資格について概説する																												
第2回	学習計画完成—各自目指す資格試験についての計画を完成させる																												
第3回	旅行関連に関する基礎知識①旅行業法について理解する																												
第4回	旅行関連に関する基礎知識②旅行業約款について理解する																												
第5回	旅行関連に関する基礎知識③海外旅行地理に関する理解および小テスト																												
第6回	旅行関連に関する基礎知識④海外航空運賃に関する理解および小テスト																												
第7回	旅行関連に関する応用知識①出入国法令について理解する																												
第8回	旅行関連に関する応用知識②海外旅行実務について理解する																												
第9回	旅行関連に関する応用知識③海外の交通機関について理解する																												
第10回	旅行関連に関する応用知識④海外旅行全般について理解する																												
第11回	世界観光地理に関する基礎知識—日本および世界の自然遺産について理解する																												
第12回	世界観光地理に関する応用知識—日本および世界の文化遺産について理解する																												
第13回	総括的な問題演習—旅行業法・旅行業約款・海外旅行地理・運賃料金に関する問題演習																												
第14回	まとめ・総合テスト																												
成績評価 方法・基準	問題演習の進捗および習熟度などの、普段の取り組みを重視する。また、学期末には各自の取り組みに準じた形でテストを行い、これらを通じて総合的に評価する。																												
テキスト																													
参考書																													

その他	参考書・問題集は講義内で適宜紹介する。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、株式会社JTBで勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	崎本 武志(T-0304)(サキモト タケシ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	観光概論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題																													
授業の概要	本講義は、これから観光学を学んでいく際に必要とされる基礎的な知識、概念、社会状況等を理解することを第一の目的としている。また、各トピックに関わる最新の事例とその調べ方を適宜紹介していく。																												
到達目標	観光学を学んでいく上での基礎知識の習得と、各受講者にとっての関心領域の発見																												
準備学習 (予習・復習) の内容	講義スケジュールの各トピックに関わる観光の事例について情報収集しておくこと。																												
スケジュー ール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション:講義の内容・方針等について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>観光の現状—日本における観光、世界の観光事情について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>「観光」の概念—観光の語源、本来の意味について詳細を解説</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>観光の歴史—日本および世界の観光に関する歴史について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>観光行動と観光者心理—観光の動機・観光行動について・何が観光行動なのか、について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>観光行動の対象 (1)アウトバウンドについて</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>観光行動の対象 (2)インバウンドについて</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>観光と情報—観光に関する各種情報・媒体について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>観光と風景—観光がうみだすものについて考察</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>観光の影響と効果—観光のもたらすものをいかにして活用するか</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>観光と地域社会—観光地域活性化の現状と課題点</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>観光政策—海外観光客2000万人時代の観光政策について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>観光産業—宿泊・交通・旅行業・その他の業界と観光についての考察</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>まとめ 観光の将来像</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション:講義の内容・方針等について	第2回	観光の現状—日本における観光、世界の観光事情について	第3回	「観光」の概念—観光の語源、本来の意味について詳細を解説	第4回	観光の歴史—日本および世界の観光に関する歴史について	第5回	観光行動と観光者心理—観光の動機・観光行動について・何が観光行動なのか、について	第6回	観光行動の対象 (1)アウトバウンドについて	第7回	観光行動の対象 (2)インバウンドについて	第8回	観光と情報—観光に関する各種情報・媒体について	第9回	観光と風景—観光がうみだすものについて考察	第10回	観光の影響と効果—観光のもたらすものをいかにして活用するか	第11回	観光と地域社会—観光地域活性化の現状と課題点	第12回	観光政策—海外観光客2000万人時代の観光政策について	第13回	観光産業—宿泊・交通・旅行業・その他の業界と観光についての考察	第14回	まとめ 観光の将来像
第1回	オリエンテーション:講義の内容・方針等について																												
第2回	観光の現状—日本における観光、世界の観光事情について																												
第3回	「観光」の概念—観光の語源、本来の意味について詳細を解説																												
第4回	観光の歴史—日本および世界の観光に関する歴史について																												
第5回	観光行動と観光者心理—観光の動機・観光行動について・何が観光行動なのか、について																												
第6回	観光行動の対象 (1)アウトバウンドについて																												
第7回	観光行動の対象 (2)インバウンドについて																												
第8回	観光と情報—観光に関する各種情報・媒体について																												
第9回	観光と風景—観光がうみだすものについて考察																												
第10回	観光の影響と効果—観光のもたらすものをいかにして活用するか																												
第11回	観光と地域社会—観光地域活性化の現状と課題点																												
第12回	観光政策—海外観光客2000万人時代の観光政策について																												
第13回	観光産業—宿泊・交通・旅行業・その他の業界と観光についての考察																												
第14回	まとめ 観光の将来像																												
成績評価 方法・基準	出席を特に重視する。その上で、レポート、ディスカッション、講義運営・活動、授業態度や発言、講義への還元度などから総合的に判断し、評価する。																												
テキスト																													
参考書																													
その他	毎時間レジュメを配布する。そのうえで授業の中で必要とあらば適宜指示・紹介する。また、受講生の関心ある事例やアップ・トゥー・デートな時事																												

	事例を盛り込むため、講義内容を若干変更することもある。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、株式会社JTБで勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	楠本 武志(T-0304)(サキモト タケシ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	鉄道・交通論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題	日本の鉄道・交通産業の現状を把握し、各業界の基礎的なルールを学ぶ																												
授業の概要	この講座は日本の鉄道・交通の体系について理解するとともに、各業界で日常活用されている基本ルールを中心に学習する。第1回から3回までは日本の交通体系を支えている交通産業の概説を中心に進める。第4回以降は各交通機関の現場で日常的に活用されている「運賃・料金計算の基本」「各約款」の内容を学ぶ。ここでは、各交通機関と利用者との契約関係を理解し、現場で必要とされる知識の一端を習得することを目的とする。 この授業は、結果として毎年9月に行われる国内旅行業務取扱管理者試験(国家試験)の「国内旅行実務」科目の事前学習ともなるので、受験希望者には有効な事前学習の機会となる。この国家資格を取得すると、旅行業だけでなく地方自治体や最近旅行業に積極的に参入している交通業界への就職にも有利となる。 なお、同試験の受験希望者は本講座と併せて「観光関連法」(前期・木曜日)「旅行地理学」(前期・火曜日)「総合旅行講座Ⅰ・Ⅱ」(前後期・木曜日)を履修すると一層効果的である。																												
到達目標	日本の構造変化とともに鉄道・交通産業も変質を迫られている。外部からは見えにくいこうした産業の実情を知り、鉄道・交通産業の日本における役割を理解する。受講の結果、交通および観光産業に関する関心が高まり、国内旅行業務取扱管理者資格取得にチャレンジされることが望ましい。																												
準備学習(予習・復習)の内容	JRまたはJTBの時刻表を読んでおくことが望ましい。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>鉄道業界(1)日本の鉄道とその特徴について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>鉄道業界(2)新幹線開業とその影響・新幹線の費用効果</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>鉄道業界の実務(1)JRの運賃 運賃計算の基本</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>鉄道業界の実務(2)JRの運賃 運賃計算の基本 その2</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>鉄道業界の実務(3)JRの運賃 運賃計算の基本 その3</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>鉄道業界の実務(4)JRの運賃・料金 本州と各島会社</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>鉄道業界の実務(5)JRの運賃・料金 新幹線・在来線</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>鉄道業界の実務(6)JRの料金 乗継割引 その他料金計算のルール</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>鉄道業界の実務(7)JRの運賃と料金 変更取消 団体のルール</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>鉄道業界の実務(8)JRの運賃と料金 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>航空業界の実務 航空会社の約款とルール</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>私鉄・バス・フェリー業界の実務 私鉄・フェリー・バスの約款とルール 世界の豪華客船</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>交通・運輸・宿泊産業の実務 運送約款・宿泊約款と利用者の関係</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について	第2回	鉄道業界(1)日本の鉄道とその特徴について	第3回	鉄道業界(2)新幹線開業とその影響・新幹線の費用効果	第4回	鉄道業界の実務(1)JRの運賃 運賃計算の基本	第5回	鉄道業界の実務(2)JRの運賃 運賃計算の基本 その2	第6回	鉄道業界の実務(3)JRの運賃 運賃計算の基本 その3	第7回	鉄道業界の実務(4)JRの運賃・料金 本州と各島会社	第8回	鉄道業界の実務(5)JRの運賃・料金 新幹線・在来線	第9回	鉄道業界の実務(6)JRの料金 乗継割引 その他料金計算のルール	第10回	鉄道業界の実務(7)JRの運賃と料金 変更取消 団体のルール	第11回	鉄道業界の実務(8)JRの運賃と料金 まとめ	第12回	航空業界の実務 航空会社の約款とルール	第13回	私鉄・バス・フェリー業界の実務 私鉄・フェリー・バスの約款とルール 世界の豪華客船	第14回	交通・運輸・宿泊産業の実務 運送約款・宿泊約款と利用者の関係
第1回	ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について																												
第2回	鉄道業界(1)日本の鉄道とその特徴について																												
第3回	鉄道業界(2)新幹線開業とその影響・新幹線の費用効果																												
第4回	鉄道業界の実務(1)JRの運賃 運賃計算の基本																												
第5回	鉄道業界の実務(2)JRの運賃 運賃計算の基本 その2																												
第6回	鉄道業界の実務(3)JRの運賃 運賃計算の基本 その3																												
第7回	鉄道業界の実務(4)JRの運賃・料金 本州と各島会社																												
第8回	鉄道業界の実務(5)JRの運賃・料金 新幹線・在来線																												
第9回	鉄道業界の実務(6)JRの料金 乗継割引 その他料金計算のルール																												
第10回	鉄道業界の実務(7)JRの運賃と料金 変更取消 団体のルール																												
第11回	鉄道業界の実務(8)JRの運賃と料金 まとめ																												
第12回	航空業界の実務 航空会社の約款とルール																												
第13回	私鉄・バス・フェリー業界の実務 私鉄・フェリー・バスの約款とルール 世界の豪華客船																												
第14回	交通・運輸・宿泊産業の実務 運送約款・宿泊約款と利用者の関係																												
成績評価方法・基準	期末試験50% 各テーマごとの理解度を見るための授業中の課題30% 授業中の質疑20%を総合して評価する																												

テキスト	
参考書	
その他	参考書については適宜紹介する。また、適宜交通産業や観光産業の現場で活躍しておられる講演者の方をお招きして講演を行うことも考えている。
参考URL	
画像	
ファイル	

( 記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、株式会社JTБで勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中島 慶二(D-0702)(ナカジマ ケイジ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	自然遺産論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題	「自然遺産」という自然環境を守り活かす考え方					
授業の概要	自然環境と社会とのかかわりを、自然遺産という切り口でとらえ、日本の自然環境の概況と自然環境を資源として活用してきた様々な方法について学ぶ。またその前提的な基礎知識として自然遺産の価値の理解に必要な、生態学、生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。					
到達目標	日本の自然環境の概況を理解し、代表的な自然環境である世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題について説明できる。					
準備学習 (予習・復習) の内容	環境関連の新聞記事に目を通す。					
スケジュー ール	第1回	年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針) 講義概要(世界自然遺産とは何か)				
	第2回	生物と環境に関する基本用語①(日本の気候と植生など)				
	第3回	生物と環境に関する基本用語②(生物地理区、標高と植生、島嶼生態学など)				
	第4回	生物と環境に関する基本用語③(生態系、植生遷移、生態系の機能、生産量など)				
	第5回	自然環境の理解と重要度評価①(自然環境保全基礎調査など)				
	第6回	自然環境の理解と重要度評価②(植生自然度、特定植物群落、巨樹巨木林など)				
	第7回	自然環境の理解と重要度評価③(生物多様性、レッドリストなど)				
	第8回	日本の世界文化遺産(日光、宮島、富士山)とユネスコエコパーク、ジオパーク				
	第9回	日本の世界自然遺産(屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島)				
	第10回	日本の世界自然遺産(奄美・琉球)				
	第11回	日本の保護地域制度(国立公園、自然環境保全地域、鳥獣保護区、ラムサール湿地など)				
	第12回	自然保護・生物多様性保全と社会				
	第13回	外部講師による特別講義				
	第14回	全体復習				
成績評価 方法・基準	定期試験60%、平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)40%を合計して評価する。					
テキスト						
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN

	1 『自然公園の手引き』	自然公園財団		
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可			
参考URL				
画像				
ファイル				

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中島 慶二(0-0702)(ナカジマ ケイジ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	環境の政治学/環境と政治
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題	環境問題を政治問題として学ぶ					
授業の概要	環境問題には様々なステークホルダーが関係していることから、容易に解決せず、政治的課題になることも多い。解決を阻む要因とは、解決へ向かわせる要因とは何なのか。現実起きた環境問題の発生要因・解決経過とを取り上げて、環境問題を社会的存在として学習する。 毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。					
到達目標	主要な環境問題の本質を、社会科学的な視点で分析できるようになる。また、環境問題に対応する法令とその概要について理解し説明できる。					
準備学習(予習・復習)の内容	普段から新聞を読み、環境問題や関連する記事に目を通しておく。					
スケジュール	第1回	概要・年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針など)				
	第2回	身近な環境問題・水質汚染				
	第3回	尾瀬問題と国土開発				
	第4回	公害問題の典型・水俣病				
	第5回	コモンスの悲劇				
	第6回	廃棄物と拡大生産者責任				
	第7回	鳥獣害とオオカミ				
	第8回	市場の失敗				
	第9回	温暖化対策				
	第10回	外来生物法とステークホルダー				
	第11回	土地法と自然環境保全				
	第12回	環境法をつくる				
	第13回	放射性物質汚染				
	第14回	まとめ:環境問題解決のための手順と手法				
成績評価方法・基準	定期試験60%、平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)40%を合計して評価する。					
テキスト						
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN



	1	『文系のための環境科学入門【新版】』	藤倉良・藤倉まなみ	有斐閣	2016	<a href="#">ISBN978-4-641-17423-8</a>
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。

## シラバス参照

教員名	中島 慶二(D-0702)(ナカジマ ケイジ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	国立公園論/国立公園及び世界遺産論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題	最重要自然保護ツール、「国立公園」を知る					
授業の概要	世界の国立公園の潮流、現況と保護地域の中の国立公園の価値評価、管理運営上の問題と解決へ向けて辿った経緯、現在の課題を学び、主に制度面の発達史を意識した学習を通して国立公園という存在を多角的に理解・把握する。					
到達目標	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題について説明することができる。					
準備学習 (予習・復習) の内容	普段から新聞を読み、環境問題や関連する記事に目を通しておく。					
スケジュール	第1回	年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針)、国立公園の概要				
	第2回	指定と対象地域、国土計画と国立公園				
	第3回	営造物公園と地域制公園(アメリカと日本・国立公園の二大制度)、地域制公園の管理上の課題				
	第4回	自然公園法の仕組みと公園計画p251				
	第5回	世界遺産・ユネスコエコパーク・ジオパークと国立公園p205				
	第6回	国立公園管理業務の実際(中島の例)				
	第7回	公園事業・施設整備				
	第8回	国立公園と自然再生(湿原)p27(草原)p55				
	第9回	外部講師による特別講義(例:国立公園満喫プロジェクト)				
	第10回	国立公園内の開発計画との調整				
	第11回	集団施設地区の再整備(層雲峡プラン65)p34				
	第12回	国立公園とエコツーリズム				
	第13回	国立公園と地域社会(協働型国立公園管理)・国立公園制度の変遷				
	第14回	全体復習				
成績評価 方法・基準	定期試験60%、平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)40%を合計して評価する。					
テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『国立公園論』	国立公園研究会・自然公園財団	南方新社		

参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『自然公園の手引き』	自然公園財団			
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中島 慶二(D-0702)(ナカジマ ケイジ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	環境概論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	現代社会/ライフ(2・3群)

副題	環境問題の基礎的理解					
授業の概要	現代社会の重要問題である環境問題について、具象的な事例に触れつつ基礎的な知識を得る。 毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。					
到達目標	代表的な環境問題について、原因や現状、対策について説明することができる。					
準備学習 (予習・復習) の内容	環境関係の新聞記事を読む					
スケジュール	第1回	概要・年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針など)				
	第2回	地球温暖化問題①				
	第3回	地球温暖化問題②				
	第4回	エネルギー問題				
	第5回	生物多様性消失問題①				
	第6回	生物多様性消失問題②				
	第7回	廃棄物問題				
	第8回	大気環境・水環境問題				
	第9回	都市化と環境問題				
	第10回	化学物質汚染				
	第11回	放射性物質汚染				
	第12回	悪臭・騒音・振動				
	第13回	身近な環境問題を探す				
	第14回	まとめ・どうすればよいのか				
成績評価 方法・基準	定期試験60%、平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)40%を合計して評価する。					
テキスト						
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『文系のための環境科学入門【新版】』	藤倉良・藤倉まなみ	有斐閣	2016	ISBN978-4-641-17423-8

	2	『環境社会検定試験eco検定公式テキスト』	東京商工会議所	日本能率協会マネジメントセンター	2019	<a href="#">ISBN978-4820727026</a>
その他						
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、環境庁入庁、国立公園管理や野生生物保護を担当する地方環境事務所や自然保護官事務所、環境省本省自然環境局、長崎県庁、宮内庁、復興庁など経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中口 哲治(T-1002)(ナカグチ テツジ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	ファッションビジネス入門I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	ファッション業界のカテゴリーに触れる																												
授業の概要	人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはメンズ、レディス、インナー、ジーンズなどファッション業界を構成する様々なカテゴリーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。																												
到達目標	ファッションにかかわる様々な業界にスポットを当て業界の仕組みやプレイヤー、企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界のポジショニングを説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。この科目はディプロマポリシーに関連し「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」を到達目標とする。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	普段購入する事のない数種のファッション雑誌に目を通し、世の中に存在するアイテムやスタイリングの豊富さを視覚的に確認する。ファッションビルやショッピングセンターに出向きブランドショップをリサーチ。商品、VMD、接客といった内容を自分なりにチェックしておく。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション/ファッションの定義と広がり</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ガールズファッション市場の概要を理解する/ギャルの歴史の変遷とフトレンドファッション</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>メンズファッション業界の概要を理解する/平成男子の生態とメンズ市場の変化</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ビューティビジネスの概要を理解する/美しさの探求と最新コスメ事情</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ブライダルビジネスの概要を理解する/結婚に対する価値観変化とビジネスの可能性</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>出版業界の概要を理解する/ファッション雑誌のパラダイム変化</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ジーンズ業界の概要を理解する/ジーンズの歴史とジーンズ業界の可能性</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>キャラクタービジネスの概要を理解する/ハローキティ戦略の概要</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>キャラクター調査演習課題①/キャラクターの誕生とビジネスモデル</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>キャラクター調査演習課題②/ビジネス実態と今後の可能性</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>インナー業界の概要を理解する/インナー・レッグファッションの現状と最新事情</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>インテリア・雑貨業界の概要を理解する/ファッション雑貨市場の変化と業態開発</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>かわいいと流行の関係性を考える/流行が作られるメカニズム</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>モデル業界の動向を知る/ファッションモデルの役割と最新事情</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション/ファッションの定義と広がり	第2回	ガールズファッション市場の概要を理解する/ギャルの歴史の変遷とフトレンドファッション	第3回	メンズファッション業界の概要を理解する/平成男子の生態とメンズ市場の変化	第4回	ビューティビジネスの概要を理解する/美しさの探求と最新コスメ事情	第5回	ブライダルビジネスの概要を理解する/結婚に対する価値観変化とビジネスの可能性	第6回	出版業界の概要を理解する/ファッション雑誌のパラダイム変化	第7回	ジーンズ業界の概要を理解する/ジーンズの歴史とジーンズ業界の可能性	第8回	キャラクタービジネスの概要を理解する/ハローキティ戦略の概要	第9回	キャラクター調査演習課題①/キャラクターの誕生とビジネスモデル	第10回	キャラクター調査演習課題②/ビジネス実態と今後の可能性	第11回	インナー業界の概要を理解する/インナー・レッグファッションの現状と最新事情	第12回	インテリア・雑貨業界の概要を理解する/ファッション雑貨市場の変化と業態開発	第13回	かわいいと流行の関係性を考える/流行が作られるメカニズム	第14回	モデル業界の動向を知る/ファッションモデルの役割と最新事情
第1回	オリエンテーション/ファッションの定義と広がり																												
第2回	ガールズファッション市場の概要を理解する/ギャルの歴史の変遷とフトレンドファッション																												
第3回	メンズファッション業界の概要を理解する/平成男子の生態とメンズ市場の変化																												
第4回	ビューティビジネスの概要を理解する/美しさの探求と最新コスメ事情																												
第5回	ブライダルビジネスの概要を理解する/結婚に対する価値観変化とビジネスの可能性																												
第6回	出版業界の概要を理解する/ファッション雑誌のパラダイム変化																												
第7回	ジーンズ業界の概要を理解する/ジーンズの歴史とジーンズ業界の可能性																												
第8回	キャラクタービジネスの概要を理解する/ハローキティ戦略の概要																												
第9回	キャラクター調査演習課題①/キャラクターの誕生とビジネスモデル																												
第10回	キャラクター調査演習課題②/ビジネス実態と今後の可能性																												
第11回	インナー業界の概要を理解する/インナー・レッグファッションの現状と最新事情																												
第12回	インテリア・雑貨業界の概要を理解する/ファッション雑貨市場の変化と業態開発																												
第13回	かわいいと流行の関係性を考える/流行が作られるメカニズム																												
第14回	モデル業界の動向を知る/ファッションモデルの役割と最新事情																												
成績評価 方法・基準	平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。																												
テキスト																													



参考書	
その他	
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、鐘紡株式会社入社。同ファッション研究所の統括ディレクターとして国内外トレンド分析・発信業務に携わる。その後フランス系教育機関に転籍し取締役主席に就任、多数の産学協同プロジェクトを指揮する。2007年ファッションプロデュース会社を設立。ブランドマーケティングを切り口に様々なプロジェクト案件に携わり丸井広告キャンペーンプロデュース、ワコール新規業態開発プロデュース、高島屋婦人ファッションディレクション、三井物産海外ブランドリニューアルなど多数のブランド開発・活性化プロデュース実績などの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。

## シラバス参照

教員名	中口 哲治(T-1002)(ナカグチ テツジ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	ファッションビジネス入門II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	ファッション業界の仕組みを知る																												
授業の概要	人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはアパレル、雑貨、素材、商社、小売りなどファッションを作り出すプレーヤーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。																												
到達目標	ファッションにかかわる様々な企業群にスポットを当て服やバッグ、ジュエリーなどの商品が如何に作られ売られていくか業界特有の仕組みや企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界における企業の位置づけに関し説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。この科目は「ディプロマポリシーに関連し「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」を到達目標とする。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	普段購入する事のない数種のファッション雑誌に目を通し、世の中に存在するアイテムやスタイリングの豊かさを視覚的に確認する。ファッションビルやショッピングセンターに向きブランドショップをリサーチ。商品、VMD、接客といった内容を自分なりにチェックしておく。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション／ファッション業界の仕組み</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ファッション業界の仕事／MD担当、パタンナーからスタイリストまで</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>アパレルメーカーの実態と位置付け／企画生産含むバリューチェーンの仕組み</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ファッション雑貨市場と企業／靴、バッグ、アクセサリ小物など</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>素材メーカーの現状とハイテク技術／糸、生地、テキスタイル商社、産地との協業</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>業界における商社の役割と実態／大手商社から専門商社への移行</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>製造小売業(SPA)の隆盛／ZARA、ユニクロ、GUのマーケティング戦略</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>アパレル業界における流行予測／流行の周期性とコレクション分析</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>海外コレクション分析演習①／ブランドの特徴とカラートレンド分析</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>海外コレクション分析演習②／ブランド・カラートレンドマップの作成</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>小売業の全体像と百貨店ビジネス／三越伊勢丹、阪神阪急グループなど</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ファッション専門店とSCの関係性／ららぽーと、駅ビル、ファッションビル</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>急成長するECとセレクトショップ／ネットビジネスの現状/ビームスの買い付け手法</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>生活者とファッション業界の関係性に関する考察／業界のあり方、未来予測</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション／ファッション業界の仕組み	第2回	ファッション業界の仕事／MD担当、パタンナーからスタイリストまで	第3回	アパレルメーカーの実態と位置付け／企画生産含むバリューチェーンの仕組み	第4回	ファッション雑貨市場と企業／靴、バッグ、アクセサリ小物など	第5回	素材メーカーの現状とハイテク技術／糸、生地、テキスタイル商社、産地との協業	第6回	業界における商社の役割と実態／大手商社から専門商社への移行	第7回	製造小売業(SPA)の隆盛／ZARA、ユニクロ、GUのマーケティング戦略	第8回	アパレル業界における流行予測／流行の周期性とコレクション分析	第9回	海外コレクション分析演習①／ブランドの特徴とカラートレンド分析	第10回	海外コレクション分析演習②／ブランド・カラートレンドマップの作成	第11回	小売業の全体像と百貨店ビジネス／三越伊勢丹、阪神阪急グループなど	第12回	ファッション専門店とSCの関係性／ららぽーと、駅ビル、ファッションビル	第13回	急成長するECとセレクトショップ／ネットビジネスの現状/ビームスの買い付け手法	第14回	生活者とファッション業界の関係性に関する考察／業界のあり方、未来予測
第1回	オリエンテーション／ファッション業界の仕組み																												
第2回	ファッション業界の仕事／MD担当、パタンナーからスタイリストまで																												
第3回	アパレルメーカーの実態と位置付け／企画生産含むバリューチェーンの仕組み																												
第4回	ファッション雑貨市場と企業／靴、バッグ、アクセサリ小物など																												
第5回	素材メーカーの現状とハイテク技術／糸、生地、テキスタイル商社、産地との協業																												
第6回	業界における商社の役割と実態／大手商社から専門商社への移行																												
第7回	製造小売業(SPA)の隆盛／ZARA、ユニクロ、GUのマーケティング戦略																												
第8回	アパレル業界における流行予測／流行の周期性とコレクション分析																												
第9回	海外コレクション分析演習①／ブランドの特徴とカラートレンド分析																												
第10回	海外コレクション分析演習②／ブランド・カラートレンドマップの作成																												
第11回	小売業の全体像と百貨店ビジネス／三越伊勢丹、阪神阪急グループなど																												
第12回	ファッション専門店とSCの関係性／ららぽーと、駅ビル、ファッションビル																												
第13回	急成長するECとセレクトショップ／ネットビジネスの現状/ビームスの買い付け手法																												
第14回	生活者とファッション業界の関係性に関する考察／業界のあり方、未来予測																												
成績評価 方法・基準	平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。																												
テキスト																													



参考書	
その他	
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、鐘紡株式会社入社。同ファッション研究所の統括ディレクターとして国内外トレンド分析・発信業務に携わる。その後フランス系教育機関に転籍し取締役主席に就任、多数の産学協同プロジェクトを指揮する。2007年ファッションプロデュース会社を設立。ブランドマーケティングを切り口に様々なプロジェクト案件に携わり丸井広告キャンペーンプロデュース、ワコール新規業態開発プロデュース、高島屋婦人ファッションディレクション、三井物産海外ブランドリニューアルなど多数のブランド開発・活性化プロデュース実績などの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中口 哲治(T-1002)(ナカグチ テツジ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	株式・証券投資論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	資本市場の役割と証券投資																												
授業の概要	資本市場に求められる役割とは何か。カリキュラム前半は、激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターン の考え方、株式投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。カリキュラム後半は、自らの資産形成に向けて、公的年金制度・確定拠出年金の活用手法を学び、実際にDCポートフォリオやマネープランの演習課題を行っていく。																												
到達目標	証券・金融市場及び資産形成関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や個人のお金を基軸としたライフプラン作りに必要な知識を習得する。この科目は経営社会学科のディプロマポリシーに関連し、「社会の変化に対応する創造的なアイデアを具現化するスキルを身につける」を到達目標にしている。																												
準備学習(予習・復習)の内容	金融資本市場・経済に関するトピックスを取り上げることが多いので、日頃から日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通し、講義後の復習で理解を深めること。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>「ガイダンス」</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>「経済情報事始め」</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>「外国為替のいろは」</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>「リスク・リターンとポートフォリオの考え方」</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>「債券入門」</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>「株式入門」</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>「投資信託入門」</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>「これからの成長産業」</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>「ライフプランと資産形成」</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>「公的年金制度について」</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>「確定拠出年金(DC)について」</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>「DCポートフォリオの作成」</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>「マネープランの作成」</td></tr> </table>	第1回	「ガイダンス」	第2回	「経済情報事始め」	第3回	「外国為替のいろは」	第4回	「リスク・リターンとポートフォリオの考え方」	第5回	「債券入門」	第6回	「株式入門」	第7回	「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」	第8回	「投資信託入門」	第9回	「これからの成長産業」	第10回	「ライフプランと資産形成」	第11回	「公的年金制度について」	第12回	「確定拠出年金(DC)について」	第13回	「DCポートフォリオの作成」	第14回	「マネープランの作成」
第1回	「ガイダンス」																												
第2回	「経済情報事始め」																												
第3回	「外国為替のいろは」																												
第4回	「リスク・リターンとポートフォリオの考え方」																												
第5回	「債券入門」																												
第6回	「株式入門」																												
第7回	「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」																												
第8回	「投資信託入門」																												
第9回	「これからの成長産業」																												
第10回	「ライフプランと資産形成」																												
第11回	「公的年金制度について」																												
第12回	「確定拠出年金(DC)について」																												
第13回	「DCポートフォリオの作成」																												
第14回	「マネープランの作成」																												
成績評価方法・基準	定期試験60%、課題レポート30%、授業中の発言など平常点10%を合計して評価する。																												
テキスト																													
参考書																													

No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
1	『「証券投資の基礎」』	野村証券投資情報部 編	丸善株式会社		
その他					
参考URL					
画像					
ファイル					

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、鐘紡株式会社入社。同ファッション研究所の統括ディレクターとして国内外トレンド分析・発信業務に携わる。その後フランス系教育機関に転籍し取締役主席に就任、多数の産学協同プロジェクトを指揮する。2007年ファッションプロデュース会社を設立。ブランドマーケティングを切り口に様々なプロジェクト案件に携わり丸井広告キャンペーンプロデュース、ワコール新規業態開発プロデュース、高島屋婦人ファッションディレクション、三井物産海外ブランドリニューアルなど多数のブランド開発・活性化プロデュース実績などの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	中口 哲治(T-1002)(ナカグチ テツジ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	ファッションマーケティング論/ファッションビジネス論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	ファッション企業におけるマーケティング戦略	
授業の概要	グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションビジネス論1では消費者の満足を得る商品を作るために市場分析、商品政策、店舗政策、コミュニケーション施策はどうあるべきかなどファッション企業のマーケティング戦略について理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。	
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的としている。この科目はディプロマポリシーに関連し「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」を到達目標とする。	
準備学習 (予習・復習) の内容	ファッション販売、WWDなど専門雑誌・業界新聞、専門書に目を通し、ファッション企業の動向を幅広く確認する。 ファッションビルやショッピングセンターに向きブランドショップをリサーチ。商品、VMD、接客といった内容を専門的にチェックしておく。	
スケジュール	第1回	オリエンテーション/ファッションマーケティングとは
	第2回	ファッションマーケティングの構造/ブランドとブランディング
	第3回	3C分析PEST分析他/消費者動向、自社、競合他社動向など
	第4回	STP分析/市場細分化とターゲット、消費者分類、感性、着用品
	第5回	流行のサイクルとアパレル企業の流行予測システム
	第6回	4P/アパレル企業のマーチャライジング戦略/ 商品構成、価格と原価
	第7回	4P/アパレル企業のチャネル戦略/ 店舗、流通
	第8回	4P/アパレル企業のコミュニケーション戦略
	第9回	課題演習/ 仮想的なブランドを作る① 消費者動向と仮説設定、ブランドコンセプト
	第10回	課題演習/ 仮想的なブランドを作る② STPと4Pの具体化
	第11回	ファッション小売業のマーケティング/店舗運営、店舗開発
	第12回	ファッション小売業のマーチャライジング/品揃えとVMD仕入れ、販売業務と店舗の販促
	第13回	WEBマーケティング(デジタルマーケティング)の実情
	第14回	新しいマーケティング手法、業界の未来予測と考察
成績評価 方法・基準	平常点(授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等)42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。演習課題は提出後、授業の中でフィードバックを行う。	
テキスト		
参考書		

その他	
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、鐘紡株式会社入社。同ファッション研究所の統括ディレクターとして国内外トレンド分析・発信業務に携わる。その後フランス系教育機関に転籍し取締役主席に就任、多数の産学協同プロジェクトを指揮する。2007年ファッションプロデュース会社を設立。ブランドマーケティングを切り口に様々なプロジェクト案件に携わり丸井広告キャンペーンプロデュース、ワコール新規業態開発プロデュース、高島屋婦人ファッションディレクション、三井物産海外ブランドリニューアルなど多数のブランド開発・活性化プロデュース実績などの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 京子(0-0605)(ヤギ キョウコ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	音楽ビジネス概論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	音楽産業の仕組みを理解し、音楽ビジネスを体系的に学ぶ - 基礎編 -	
授業の概要	音楽配信に代表されるデジタルICT(情報通信技術)の進展などによって、音楽産業は今、百年に一度の大転換期を迎えている。本科目では、音楽産業の歴史と現状を踏まえ、音楽産業の構造や組織、ビジネスモデルの変遷などの側面、そして、音楽産業に携わるプレイヤー(企業やアーティスト)、音楽コンテンツなどの側面の両面から学ぶことによって、音楽産業の仕組みを理解していく。前期の「音楽ビジネス概論I」では、音楽産業の成り立ちからビジネスモデルの種類、それに携わるプレイヤーなどについて理解を深めるほか、邦楽・洋楽アーティストのヒストリーから音楽コンテンツ、ロック・フェス最新情報まで幅広い知識を習得していく。	
到達目標	本科目は、「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている。」という経営社会学科のディプロマ・ポリシーと関連し、「音楽」を文化や娯楽としてだけでなく、最も身近な「ビジネス」として捉える視点を養い、音楽ビジネスに関する幅広い知識を習得していくことを目標とする。	
準備学習(予習・復習)の内容	予習:音楽をできるだけ多く(ジャンル、時間)、さまざまな方法で楽しむことはもちろん、音楽やアーティストそのものをビジネスと関連づけながら、常に興味や問題意識を持つよう心がける(100分程度)。復習:問題意識や関心のある対象について、新聞・雑誌、ウェブ・モバイル、SNS、書籍・文献など多種多様なメディアから情報収集を行い、まとめるようにする(100分程度)。	
スケジュール	第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスとは
	第2回	【音楽産業の成り立ちと歴史(1)】 録音・複製技術の発明とレコード、CDの誕生
	第3回	【音楽産業の成り立ちと歴史(2)】 音楽配信サービス(ナブスター、iTunes&スティーブ・ジョブズ、スポティファイ、LINE MUSIC)
	第4回	【音楽産業の現在と未来】 音楽産業の現状と課題をデータ分析(PEST分析)
	第5回	【音楽産業のビジネスモデルの変遷】 パッケージ・ビジネスから360度ビジネス、経営戦略とビジネスモデル
	第6回	【音楽ビジネスのプレイヤー(1)】 パッケージ・ビジネス&レコード会社、音楽配信ビジネス&サービス
	第7回	【音楽ビジネスのプレイヤー(2)】 マネジメント・ビジネス、ライブエンタテインメントビジネス&コンサート・プロモーター
	第8回	【J-POPビジネスとアーティスト(1)】 J-POPの誕生とビフォーJ-POP
	第9回	【J-POPビジネスとアーティスト(2)】 アフターJ-POP
	第10回	【洋楽ヒストリー(1)】 ロックの誕生から進化・細分化、ロック商業主義時代へ
	第11回	【洋楽ヒストリー(2)】 ロック黄金期の復活からグランジ、歌姫、アイドル、EDMまで
	第12回	【ロック・フェスティバル(1)】 海外のロック・フェスの変遷と仕組み(ウッドストックからトゥモローランドまで)

	第13回 【ロック・フェスティバル(2)】 国内のロック・フェスの変遷と仕組み(フジロック、サマソニ、ロックインジャパンほか)
	第14回 【総括】 前期のまとめ、最終課題レポートまたは、期末テストについて
成績評価 方法・基準	平常点(50%)、最終課題レポートまたは定期試験(50%)による総合評価とする。 ※平常点には、不定期で実施するミニ・レポートを兼ねたリフレクションシートの提出および、講義やディスカッションへの参加態度が含まれる。 ※リフレクションシート(Q&A表)のフィードバックや解説は、講義内外で随時行っていく。
テキスト	
参考書	
その他	※講義の進行状況によって、一部内容や講義順を変更する場合がある。 ※講義内容にあわせて適宜レジュメを配布する。 ※講義においてアーティストのライブ映像などの動画や音楽も適宜使用するほか、参考コンテンツ(音楽、映画、書籍など)を随時提示していく。 これらの教材からも最終課題レポートおよび、定期試験に出題されるため、しっかりと講義に取り組んでほしい。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、株式会社クリエイティブマンプロダクション、Live Nation Japanにて、レディー・ガガをはじめとする海外アーティストの来日公演や、国内最大級のロック・フェスティバル「サマソニック」などのプロモーション、マーケティングを統括するなどの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 京子(D-0605)(ヤギ キョウコ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	音楽ビジネス概論II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	音楽産業の仕組みを理解し、音楽ビジネスを体系的に学ぶ ー応用編ー																				
授業の概要	<p>“百年に一度”と言われる大転換期にある音楽産業は今、まさにビジネスモデルの変換を余儀なくされている。本科目では、音楽産業の歴史と現状を踏まえつつ、音楽産業の構造や組織、ビジネスモデルの変遷などの側面、そして、音楽産業に携わるプレイヤー(企業やアーティスト)、音楽コンテンツなどの側面の両面から学ぶことによって、音楽産業の仕組みを理解していく。後期の「音楽ビジネス概論II」では、実際に音楽産業で現在進行している主要なビジネスモデルと、そのプレイヤーに焦点を当て、新たなビジネスモデルの構築や実践によって成功した企業や組織、アーティストなどについて、ケース・スタディー形式で学び、音楽ビジネスを体系的に理解していく。</p>																				
到達目標	本科目は、「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている。」という経営社会学科のディプロマ・ポリシーと関連し、「音楽」を文化や娯楽としてだけでなく、最も身近な「ビジネス」として捉える視点を養い、音楽ビジネスに関する幅広い知識を習得していくことを目標とする。																				
準備学習(予習・復習)の内容	<p>予習:音楽をできるだけ多く(ジャンル、時間)、さまざまな方法で楽しむことはもちろん、音楽やアーティストそのものをビジネスと関連づけながら、常に関心や問題意識を持つよう心がける(100分程度)。  復習:問題意識や関心のある対象について、新聞・雑誌、ウェブ・モバイル、SNS、書籍・文献など多種多様なメディアから情報収集を行い、まとめるようにする(100分程度)。</p>																				
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスの変遷、経営戦略とビジネスモデル</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【パッケージ・ビジネス】 レコード業界、レコード会社の仕組み</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【音楽プロデューサー(1)】 サウンド・プロデューサー 事例:小室哲哉、小林武史ほか</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【音楽プロデューサー(2)】 ビジネス・プロデューサー 事例:秋元康&amp;AKB48</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【音楽配信ビジネス】 音楽配信サービス、SWOT分析 事例:AWA、LINE MUSIC、Apple Music、レコチョク、Spotify</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【動画配信ビジネス】 動画配信サービス、SWOT分析 事例:YouTube、ニコニコ動画、Netflix、Hulu、dTV、UULA</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【マネジメント・ビジネス】 マネジメント会社 事例:ももいろクローバーZ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【広告ビジネス】 コミュニケーション戦略(タイアップ・ビジネス)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【ライブエンターテインメントビジネス(1)】 ライブ・コンサート、コンサート・プロモーター 事例:ONE OK ROCK、ワン・ダイレクション</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>【ライブエンターテインメントビジネス(2)】 ロック・フェスティバル 事例:サマーソニック</td> </tr> </table>	第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスの変遷、経営戦略とビジネスモデル	第2回	【パッケージ・ビジネス】 レコード業界、レコード会社の仕組み	第3回	【音楽プロデューサー(1)】 サウンド・プロデューサー 事例:小室哲哉、小林武史ほか	第4回	【音楽プロデューサー(2)】 ビジネス・プロデューサー 事例:秋元康&AKB48	第5回	【音楽配信ビジネス】 音楽配信サービス、SWOT分析 事例:AWA、LINE MUSIC、Apple Music、レコチョク、Spotify	第6回	【動画配信ビジネス】 動画配信サービス、SWOT分析 事例:YouTube、ニコニコ動画、Netflix、Hulu、dTV、UULA	第7回	【マネジメント・ビジネス】 マネジメント会社 事例:ももいろクローバーZ	第8回	【広告ビジネス】 コミュニケーション戦略(タイアップ・ビジネス)	第9回	【ライブエンターテインメントビジネス(1)】 ライブ・コンサート、コンサート・プロモーター 事例:ONE OK ROCK、ワン・ダイレクション	第10回	【ライブエンターテインメントビジネス(2)】 ロック・フェスティバル 事例:サマーソニック
第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスの変遷、経営戦略とビジネスモデル																				
第2回	【パッケージ・ビジネス】 レコード業界、レコード会社の仕組み																				
第3回	【音楽プロデューサー(1)】 サウンド・プロデューサー 事例:小室哲哉、小林武史ほか																				
第4回	【音楽プロデューサー(2)】 ビジネス・プロデューサー 事例:秋元康&AKB48																				
第5回	【音楽配信ビジネス】 音楽配信サービス、SWOT分析 事例:AWA、LINE MUSIC、Apple Music、レコチョク、Spotify																				
第6回	【動画配信ビジネス】 動画配信サービス、SWOT分析 事例:YouTube、ニコニコ動画、Netflix、Hulu、dTV、UULA																				
第7回	【マネジメント・ビジネス】 マネジメント会社 事例:ももいろクローバーZ																				
第8回	【広告ビジネス】 コミュニケーション戦略(タイアップ・ビジネス)																				
第9回	【ライブエンターテインメントビジネス(1)】 ライブ・コンサート、コンサート・プロモーター 事例:ONE OK ROCK、ワン・ダイレクション																				
第10回	【ライブエンターテインメントビジネス(2)】 ロック・フェスティバル 事例:サマーソニック																				

	第11回	【ビジネスモデル転換による成功事例(1-1)】 パッケージ・ビジネスから360度ビジネスへ 事例:エイベックス(1)
	第12回	【ビジネスモデル転換による成功事例(1-2)】 パッケージ・ビジネスから360度ビジネスへ 事例:エイベックス(2)
	第13回	【ビジネスモデル転換による成功事例(2)】 マネジメント・ビジネスから360度ビジネスへ 事例:LDH、アミューズ
	第14回	【総括】 後期のまとめ、最終課題レポートまたは、期末テストについて
成績評価 方法・基準	平常点(50%)、最終課題レポートまたは定期試験(50%)による総合評価とする。 ※平常点には、不定期で実施するミニ・レポートを兼ねたリフレクションシートの提出および、講義やディスカッションへの参加態度が含まれる。 ※リフレクションシート(Q&A表)のフィードバックや解説は、講義内外で随時行っていく。	
テキスト		
参考書		
その他	<p>※講義の進行状況によって、一部内容や講義順を変更する場合がある。</p> <p>※講義内容にあわせて適宜レジュメを配布する。</p> <p>※講義においてアーティストのライブ映像などの動画や音楽も適宜使用するほか、参考コンテンツ(音楽、映画、書籍など)を随時提示していく。 これらの教材からも最終課題レポートまたは、定期試験に出題されるため、しっかりと講義に取り組んでほしい。</p>	
参考URL		
画像		
ファイル		

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、株式会社クリエイティブマンプロダクション、Live Nation Japanにて、レディー・ガガをはじめとする海外アーティストの来日公演や、国内最大級のロック・フェスティバル「サマーソニック」などのプロモーション、マーケティングを統括するなどの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 京子(D-0605)(ヤギ キョウコ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	音楽マーケティング論/音楽プロデュース論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	音楽ビジネスを戦略的にプロデュースするための知識とスキルの習得を目指すマーケティング戦略編ー	
授業の概要	音楽産業は今、社会経済のグローバル化や消費者行動の変化、音楽配信に代表される技術革新などの影響を受け、大きく変革している。本科目では、音楽ビジネスに携わるプレイヤーが、音楽産業を取り巻くさまざまな環境変化に対応しながら、どのようにして新たなビジネスサービスやコンテンツを生み出し、戦略的にマネジメントしていくべきかについて学んでいく。「音楽マーケティング論」では、経営学の中でもとくに「マーケティング戦略」にフォーカスしながら、音楽ビジネスをプロデュースするために必要な音楽ビジネスに関する幅広い知識と、それらをマネジメントしていくうえで必須となる経営学の基礎知識とスキルの習得を目指す。	
到達目標	本科目では、「新規ビジネスの創造、スポーツビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を持っている。」という経営社会学科のディプロマ・ポリシーと関連し、音楽ビジネスに関する知識と理解を深めることによって、新たな音楽ビジネスサービスや音楽コンテンツを生み出すクリエイティブ力を養っていく。また、それらのビジネスサービスやコンテンツを展開していくためのマーケティングに関する知識とスキルを習得していくことを目標とする。	
準備学習(予習・復習)の内容	予習:国内外の最新音楽メディアやコンテンツなど、音楽ビジネス関連の情報には常にアンテナを張り、まとめるようにしておく(100分程度)。復習:問題意識や関心のある対象について、新聞・雑誌、ウェブ・モバイル、SNS、書籍・文献など多種多様なメディアから情報収集を行い、分析を試みる(100分程度)。	
スケジュール	第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスとは、経営戦略・マーケティング戦略とは
	第2回	【音楽産業の概況】 音楽産業の外部分析(PEST分析)
	第3回	【競争戦略とは(1)】 音楽ビジネスのSWOT分析 事例:ロック・フェスティバル市場、VIVA LA ROCK
	第4回	【競争戦略(2)】 クロスSWOT分析、課題と対応戦略の導出 事例:ロック・フェスティバル市場、VIVA LA ROCK
	第5回	【業界構造分析(1)】 音楽業界構造とファイブ・フォース分析 事例:音楽配信ビジネス
	第6回	【業界構造分析(2)】 音楽ビジネスのファイブ・フォース分析 事例:音楽配信ビジネス、
	第7回	【業界構造分析(3)】 音楽業界構造とファイブ・フォース分析 事例:音楽配信ビジネス
	第8回	【マーケティング戦略(1)】 マーケティングの定義、STP 事例:J-POPアーティスト
	第9回	【マーケティング戦略(2)】 マーケティング・ミックス(4P) 事例:J-POPアーティスト
	第10回	【コミュニケーション戦略(1)】 広告宣伝活動

	第11回	【コミュニケーション戦略(2)】 販売促進活動
	第12回	【マーケティング戦略のケーススタディ(1)】 事例:レコード会社
	第13回	【マーケティング戦略のケーススタディ(2)】 事例:マネジメント会社
	第14回	【総括】 前期のまとめ、最終課題レポートまたは、期末テストについて
成績評価 方法・基準	平常点(50%)、最終課題レポートまたは、定期試験(50%)による総合評価とする。 ※平常点には、不定期で実施するミニレポートを兼ねたリフレクションシートの提出および、講義やディスカッションへの参加態度が含まれる。 ※リフレクションシートに関するフィードバック等は、講義内外で随時行っていく。 ※講義内で行うグループワークやディスカッションに対するフィードバックや解説も適宜進めていく。	
テキスト		
参考書		
その他	<p>※講義の進行状況によって、一部内容や講義順を変更する場合がある。</p> <p>※講義内容にあわせて適宜レジュメを配布する。</p> <p>※講義においてアーティストのライブ映像などの動画や音楽も適宜使用するほか、参考コンテンツ(音楽、映画、書籍など)を随時提示していく。これらの教材からも最終課題レポートまたは、定期試験に出題されるため、しっかりと講義に取り組んでほしい。</p>	
参考URL		
画像		
ファイル		

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、株式会社クリエイティブマンプロダクション、Live Nation Japanにて、レディー・ガガをはじめとする海外アーティストの来日公演や、国内最大級のロック・フェスティバル「サマーソニック」などのプロモーション、マーケティングを統括するなどの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 京子(D-0605)(ヤギ キョウコ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	音楽プロデュース論II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	経営社会(2・3群)

副題	音楽ビジネスを戦略的にプロデュースするための知識とスキルの習得を目指すー経営戦略編ー																						
授業の概要	音楽産業は今、社会経済のグローバル化や消費者行動の変化、音楽配信などの技術革新やデジタルICT(情報通信技術)の進展などの影響を受け、大きく変革している。 本科目では、音楽ビジネスをプロデュースしていくために必要な、音楽コンテンツやサービスに関する幅広い知識と、企業や組織が持続的に成長していくうえで重要となるマネジメント・スキルの習得を目指していく。 「音楽プロデュース論II」では、さまざまな環境変化に対応しながら、新たなビジネスサービスやコンテンツをプロデュースしている実在の音楽ビジネスのプレイヤーによる経営戦略やビジネスモデルを事例に、音楽ビジネスのプロデュースおよびマネジメントについて学んでいく。																						
到達目標	本科目では、「新規ビジネスの創造、スポーツビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を持っている。」という経営社会学科のディプロマポリシーと関連し、音楽ビジネスに関する知識と理解を深めることによって、新たな音楽ビジネスサービスや音楽コンテンツを生み出すクリエイティブ力を養っていく。また、それらのビジネスサービスやコンテンツを展開していくためのマネジメントスキルを習得していくことを目標とする。																						
準備学習(予習・復習)の内容	予習:国内外の最新音楽メディアやコンテンツなど、音楽ビジネス関連の情報には常にアンテナを張り、まとめるようにしておく(100分程度)。 復習:問題意識や関心のある対象について、新聞・雑誌、ウェブ・モバイル、SNS、書籍・文献など多種多様なメディアから情報収集を行い、分析を試みる(100分程度)。																						
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスとは、経営戦略とビジネスモデル</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【フリーミアムモデル】 音楽配信ビジネス 事例:スポティファイ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【プラットフォーム戦略&amp;オープン戦略】 音楽配信ビジネス 事例:フェイスブック、アップル、LINE、楽天市場</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【クローズド戦略】 パッケージ・ビジネス、バリューチェーン 事例:レコード会社</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【フルオーシャン戦略】 事例:スポティファイ、サウスウエスト航空、QBハウス</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【ジレット型モデル】 事例:アップルの音楽配信ビジネス(逆ジレット型モデル)、ネスレ、キヤノン</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【競争ポジションの類型】 レコード会社のリーダー・チャレンジャー・フォロワー・ニッチャー</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【製品ライフサイクル】 音楽コンテンツの製品ライフサイクル</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【多角化戦略(1)】 多角化のメリット・デメリット 音楽ビジネスの多角化:360度ビジネス</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>【多角化戦略(2)】 PPM(ポートフォリオマネジメント)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>【多角化戦略(3)】 事例:ジャニーズ事務所のPPM分析</td> </tr> </table>	第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスとは、経営戦略とビジネスモデル	第2回	【フリーミアムモデル】 音楽配信ビジネス 事例:スポティファイ	第3回	【プラットフォーム戦略&オープン戦略】 音楽配信ビジネス 事例:フェイスブック、アップル、LINE、楽天市場	第4回	【クローズド戦略】 パッケージ・ビジネス、バリューチェーン 事例:レコード会社	第5回	【フルオーシャン戦略】 事例:スポティファイ、サウスウエスト航空、QBハウス	第6回	【ジレット型モデル】 事例:アップルの音楽配信ビジネス(逆ジレット型モデル)、ネスレ、キヤノン	第7回	【競争ポジションの類型】 レコード会社のリーダー・チャレンジャー・フォロワー・ニッチャー	第8回	【製品ライフサイクル】 音楽コンテンツの製品ライフサイクル	第9回	【多角化戦略(1)】 多角化のメリット・デメリット 音楽ビジネスの多角化:360度ビジネス	第10回	【多角化戦略(2)】 PPM(ポートフォリオマネジメント)	第11回	【多角化戦略(3)】 事例:ジャニーズ事務所のPPM分析
第1回	【ガイダンス】 講義の概要、音楽ビジネスとは、経営戦略とビジネスモデル																						
第2回	【フリーミアムモデル】 音楽配信ビジネス 事例:スポティファイ																						
第3回	【プラットフォーム戦略&オープン戦略】 音楽配信ビジネス 事例:フェイスブック、アップル、LINE、楽天市場																						
第4回	【クローズド戦略】 パッケージ・ビジネス、バリューチェーン 事例:レコード会社																						
第5回	【フルオーシャン戦略】 事例:スポティファイ、サウスウエスト航空、QBハウス																						
第6回	【ジレット型モデル】 事例:アップルの音楽配信ビジネス(逆ジレット型モデル)、ネスレ、キヤノン																						
第7回	【競争ポジションの類型】 レコード会社のリーダー・チャレンジャー・フォロワー・ニッチャー																						
第8回	【製品ライフサイクル】 音楽コンテンツの製品ライフサイクル																						
第9回	【多角化戦略(1)】 多角化のメリット・デメリット 音楽ビジネスの多角化:360度ビジネス																						
第10回	【多角化戦略(2)】 PPM(ポートフォリオマネジメント)																						
第11回	【多角化戦略(3)】 事例:ジャニーズ事務所のPPM分析																						

	第12回	【アートマネジメント(1)】 アートマネジメントの概念、文化芸術(アート、エンターテインメント)のマネジメント・プロデュース 事例:サンフランシスコ交響楽団、レディー・ガガ
	第13回	【アートマネジメント(2)】 アートマネジメントのケーススタディー 事例:文化施設、芸術祭(アートフェスティバル)、楽団 事例:兵庫県立芸術文化センター
	第14回	【総括】 前期のまとめ、最終課題レポートまたは、期末テストについて
成績評価 方法・基準	平常点(50%)、最終課題レポートまたは定期試験(50%)による総合評価とする。 ※平常点には、不定期で実施するミニレポートを兼ねたリフレクションシートの提出および、講義やディスカッションへの参加態度が含まれる。 ※リフレクションシートおよび、講義内で行うグループ・ディスカッションに関するフィードバックや解説は随時、講義内外で行っていく。	
テキスト		
参考書		
その他	※講義の進行状況によって、一部内容や講義順を変更する場合があります。 ※講義内容にあわせて適宜レジュメを配布する。 ※講義においてアーティストのライブ映像などの動画や音楽も適宜使用するほか、参考コンテンツ(音楽、映画、書籍など)を随時提示していく。 これらの教材からも最終課題レポートまたは、定期試験に出題されるため、しっかりと講義に取り組んでほしい。	
参考URL		
画像		
ファイル		

## (記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、株式会社クリエイティブマンプロダクション、Live Nation Japanにて、レディー・ガガをはじめとする海外アーティストの来日公演や、国内最大級のロック・フェスティバル「サマーソニック」などのプロモーション、マーケティングを統括するなどの経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	神田 洋(T-0901)(カンダ ヒロシ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	スポーツジャーナリズム論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	近代競技スポーツとメディア	
授業の概要	近代競技スポーツの誕生、伝播にはメディアの存在が欠かせなかった。スポーツとメディアのかかわりから、現代社会の普遍的な問題を探る。スポーツの歴史を学ぶことでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点から現代スポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツを主な題材とする。	
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を掘り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。	
準備学習 (予習・復習) の内容	講義、討論のテーマに沿った文献を提出し、その文献を選んだ理由を説明できるよう準備する。毎回100分程度。	
スケジュール	第1回	オリエンテーション スポーツとは何か
	第2回	"アメリカンスポーツ、の起源 ベースボールとメディア
	第3回	野球殿堂の嘘 偽りの聖地とメディア
	第4回	競技スポーツの誕生 フットボール黎明期
	第5回	競技場が示すもの ルースが建てた家？
	第6回	スポーツルール考① 平等ってなんだ？
	第7回	スポーツルール考② スポーツをスポーツたらしめるもの
	第8回	スポーツジャーナリズムの隆盛 1920年代の米国
	第9回	日本のスポーツジャーナリズム 「いだてん」と天狗たち
	第10回	スポーツ、日本上陸 独自ルールを生まない国
	第11回	甲子園という文化 異例尽くしの祭典
	第12回	プロ野球から考える日本 なぜNo. 1スポーツたり得たか
	第13回	スポーツと体育 日本スポーツ界の苦悩
	第14回	前期総括

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など講義参加50%、スポーツとメディアの関係についての知識を問う学期末試験50%を合計して評価する。
テキスト	
参考書	
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。参考書は毎回講義に沿ったものを2、3冊紹介する。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、共同通信社にて記者として勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	神田 洋(T-0901)(カンダ ヒロシ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	スポーツジャーナリズムⅡ
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	現代スポーツの諸問題																												
授業の概要	現代スポーツが抱える問題を主に報道から分析し、現代社会について考察する。スポーツの歴史を検証することでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点からスポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツ報道を主な題材とする。																												
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を掘り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	講義、討論のテーマに沿った文献を提出し、その文献を選んだ理由を説明できるよう準備する。毎回100分程度。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション スポーツとメディア</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ソープ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>どうなる東京五輪 五輪の歴史と未来</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルスが生んだもの</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>どうなる東京パラリンピック スポーツの新たな可能性</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>スポーツと金 Jリーグかプロ野球か</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>最強の女性アスリートは誰だ ステレオタイプと解放、タイトルIX</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>スポーツと人種 ニグロリーグが示すもの</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>大学運動部は変わるか UNIVASとNCAA</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本での歴史と課題</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>発言するアスリート ダルビッシュは野球を変えるか</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>後期総括</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション スポーツとメディア	第2回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ソープ	第3回	どうなる東京五輪 五輪の歴史と未来	第4回	スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルスが生んだもの	第5回	どうなる東京パラリンピック スポーツの新たな可能性	第6回	スポーツと金 Jリーグかプロ野球か	第7回	最強の女性アスリートは誰だ ステレオタイプと解放、タイトルIX	第8回	スポーツと人種 ニグロリーグが示すもの	第9回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか	第10回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか	第11回	大学運動部は変わるか UNIVASとNCAA	第12回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本での歴史と課題	第13回	発言するアスリート ダルビッシュは野球を変えるか	第14回	後期総括
第1回	オリエンテーション スポーツとメディア																												
第2回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ソープ																												
第3回	どうなる東京五輪 五輪の歴史と未来																												
第4回	スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルスが生んだもの																												
第5回	どうなる東京パラリンピック スポーツの新たな可能性																												
第6回	スポーツと金 Jリーグかプロ野球か																												
第7回	最強の女性アスリートは誰だ ステレオタイプと解放、タイトルIX																												
第8回	スポーツと人種 ニグロリーグが示すもの																												
第9回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか																												
第10回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか																												
第11回	大学運動部は変わるか UNIVASとNCAA																												
第12回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本での歴史と課題																												
第13回	発言するアスリート ダルビッシュは野球を変えるか																												
第14回	後期総括																												

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答、コメントシートなど講義参加50%、スポーツとメディアの関係について知識を問う学期末試験50%を合計して評価する。
テキスト	
参考書	
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。参考書は毎回講義に沿ったものを2、3冊紹介する。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、共同通信社にて記者として勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	神田 洋(T-0901)(カンダ ヒロシ)
履修開始年次	3年生
単位	2
学期	前期
科目名	スポーツ・ライター、キャスター論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題																													
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。																												
到達目標	ライターの基本動作について知識を得て、小レポートなどで実践を試みる。また著名作品を分析し、作品を支える視点を学ぶ。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	テーマごとに講義の材料とする記事を提出し、理由を説明できるよう準備する。毎回100分程度。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション 記者の仕事</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>質問がライターの根幹</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>質問ゲーム</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>新聞のスポーツ面を読む 構成と記事の決まり事</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>スポーツライティングの特性 他ジャンルとの違い</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>君がデスクだ①ここがおかしいスポーツ記事</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>君がデスクだ②私ならこう書く</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>スマホ時代とスポーツ記事 ライン文章論</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>記録の世界 スコアシートから見えるもの</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>新聞記事比較①マスコミは画一的か</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>新聞記事比較②エンターテナーは誰だ</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>速報と続報 ニュースは育つ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>書くことの意味 盗作、おつ造、不祥事から学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>前期総括</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション 記者の仕事	第2回	質問がライターの根幹	第3回	質問ゲーム	第4回	新聞のスポーツ面を読む 構成と記事の決まり事	第5回	スポーツライティングの特性 他ジャンルとの違い	第6回	君がデスクだ①ここがおかしいスポーツ記事	第7回	君がデスクだ②私ならこう書く	第8回	スマホ時代とスポーツ記事 ライン文章論	第9回	記録の世界 スコアシートから見えるもの	第10回	新聞記事比較①マスコミは画一的か	第11回	新聞記事比較②エンターテナーは誰だ	第12回	速報と続報 ニュースは育つ	第13回	書くことの意味 盗作、おつ造、不祥事から学ぶ	第14回	前期総括
第1回	オリエンテーション 記者の仕事																												
第2回	質問がライターの根幹																												
第3回	質問ゲーム																												
第4回	新聞のスポーツ面を読む 構成と記事の決まり事																												
第5回	スポーツライティングの特性 他ジャンルとの違い																												
第6回	君がデスクだ①ここがおかしいスポーツ記事																												
第7回	君がデスクだ②私ならこう書く																												
第8回	スマホ時代とスポーツ記事 ライン文章論																												
第9回	記録の世界 スコアシートから見えるもの																												
第10回	新聞記事比較①マスコミは画一的か																												
第11回	新聞記事比較②エンターテナーは誰だ																												
第12回	速報と続報 ニュースは育つ																												
第13回	書くことの意味 盗作、おつ造、不祥事から学ぶ																												
第14回	前期総括																												
成績評価 方法・基準	新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加60%、取材者としてのアイデアを問う学期末試験40%を合計して評価する。																												
テキスト																													
参考書																													
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。毎回、講義内容に沿った参考書を2、3冊紹介する。																												

参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、共同通信社にて記者として勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	神田 洋(T-0901)(カンダ ヒロシ)
履修開始年次	3年生
単位	2
学期	後期
科目名	スポーツ・ライター、キャスター論II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題																													
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。複数作品の比較や、分析表を使った記事の分解など、実証的な手法でスポーツライティングに挑む。																												
到達目標	ライターの基本動作について知識を得て、小レポートなどで実践を試みる。また著名作品を分析し、作品を支える視点を学ぶ。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。																												
準備学習(予習・復習)の内容	テーマごとに講義の材料とする記事を提出し、その理由を説明できるよう準備する。毎回100分程度。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション スポーツライティングの世界</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>アスリートの表現力「松井と長谷部」①</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>アスリートの表現力「松井と長谷部」②</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>スポーツコラムを読む①</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>スポーツコラムを読む②</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>スポーツコラムを読む③</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>フィクションが描くスポーツ①</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>フィクションが描くスポーツ②</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>フィクションが描くスポーツ③</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>虫明亜呂無の世界①</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>虫明亜呂無の世界②</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>英語に挑む・アメリカンスポーツライティング①</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>英語に挑む・アメリカンスポーツライティング②</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>後期総括</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション スポーツライティングの世界	第2回	アスリートの表現力「松井と長谷部」①	第3回	アスリートの表現力「松井と長谷部」②	第4回	スポーツコラムを読む①	第5回	スポーツコラムを読む②	第6回	スポーツコラムを読む③	第7回	フィクションが描くスポーツ①	第8回	フィクションが描くスポーツ②	第9回	フィクションが描くスポーツ③	第10回	虫明亜呂無の世界①	第11回	虫明亜呂無の世界②	第12回	英語に挑む・アメリカンスポーツライティング①	第13回	英語に挑む・アメリカンスポーツライティング②	第14回	後期総括
第1回	オリエンテーション スポーツライティングの世界																												
第2回	アスリートの表現力「松井と長谷部」①																												
第3回	アスリートの表現力「松井と長谷部」②																												
第4回	スポーツコラムを読む①																												
第5回	スポーツコラムを読む②																												
第6回	スポーツコラムを読む③																												
第7回	フィクションが描くスポーツ①																												
第8回	フィクションが描くスポーツ②																												
第9回	フィクションが描くスポーツ③																												
第10回	虫明亜呂無の世界①																												
第11回	虫明亜呂無の世界②																												
第12回	英語に挑む・アメリカンスポーツライティング①																												
第13回	英語に挑む・アメリカンスポーツライティング②																												
第14回	後期総括																												
成績評価方法・基準	新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加60%、取材者としてのアイデアを問う学期末試験40%を合計して評価する。																												
テキスト																													
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN																						
No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN																								

	1	『エキストラ・インングス』	松井秀喜	文春文庫		
	2	『心を整える。』	長谷部誠	幻冬舎文庫		
	3	『肉体への憎しみ』	虫明亜呂無	筑摩書房		
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。毎回、講義内容に沿った参考書を2、3冊紹介する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、共同通信社にて記者として勤務経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	清水 一彦(0-110)(シミズ カズヒコ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	出版論I
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	出版の本質と編集工程を理解する。																												
授業の概要	出版論Iでは、おもに出版の概念と出版物の編集・制作工程に焦点をあて講義をすすめる。出版は文化産業である。出版は利益を生み出すことだけが目的の産業ではない。出版は文化をつたえ、創造する。出版がないら、現在の文明社会自体もありえない。もちろん、教養として出版のことを勉強する学生も歓迎するが、出版論はI、IIともに、将来、出版産業にかかわるつもりを想定して授業をすすめる。																												
到達目標	出版の本質が文化産業であることを理解する。技術的側面としては、編集を軸として出版物の製作過程を理解する。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	予習:雑誌、書籍を分析しながら読む習慣を身につける。完成品としての雑誌や書籍から、企画意図や編集方法を逆算する。シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習:授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論Iでは、このうちのAとBを主軸に講義する。出版論Iのオリエンテーション。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>出版とはなにか。出版の歴史1。口承から文字での伝達へ。文字が人の思考にもたらした変化。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>出版の歴史2。写本から印刷へ。グーテンベルグは何を成し遂げたのか。メディア論的考察。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>出版の歴史3。第二次世界大戦期まで。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>出版の歴史4。デジタル化、ネット化以降のあらたな出版概念について考察する。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>出版物の多様性。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>編集の流れ①編集部の仕事。 ファッション誌での実例1編集部の組織と仕事</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>編集の流れ②ファッション誌での実例2編集長の仕事</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>編集の流れ③ 出版における企画の成り立ち。台割の読み方。ノンブルとページの概念の違いなどを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>編集の流れ④ フォントの話。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>編集の流れ⑤ 誌面・書籍デザインの方法。結果としてのデザインとそのデザインを実践するDTPIについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>編集の流れ⑥ イラスト、写真。現在の出版はテキスト+ビジュアルから成り立つ。その一方の要素であるビジュアルについて学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>編集の流れ⑦ 印刷技術。印刷の技術的側面について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>編集の流れ⑧ 装丁、印刷、製本。物質としての出版物の商品化過程の最後の仕上げ段階を理解する。</td> </tr> </table>	第1回	出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論Iでは、このうちのAとBを主軸に講義する。出版論Iのオリエンテーション。	第2回	出版とはなにか。出版の歴史1。口承から文字での伝達へ。文字が人の思考にもたらした変化。	第3回	出版の歴史2。写本から印刷へ。グーテンベルグは何を成し遂げたのか。メディア論的考察。	第4回	出版の歴史3。第二次世界大戦期まで。	第5回	出版の歴史4。デジタル化、ネット化以降のあらたな出版概念について考察する。	第6回	出版物の多様性。	第7回	編集の流れ①編集部の仕事。 ファッション誌での実例1編集部の組織と仕事	第8回	編集の流れ②ファッション誌での実例2編集長の仕事	第9回	編集の流れ③ 出版における企画の成り立ち。台割の読み方。ノンブルとページの概念の違いなどを学ぶ。	第10回	編集の流れ④ フォントの話。	第11回	編集の流れ⑤ 誌面・書籍デザインの方法。結果としてのデザインとそのデザインを実践するDTPIについて理解する。	第12回	編集の流れ⑥ イラスト、写真。現在の出版はテキスト+ビジュアルから成り立つ。その一方の要素であるビジュアルについて学ぶ。	第13回	編集の流れ⑦ 印刷技術。印刷の技術的側面について学ぶ。	第14回	編集の流れ⑧ 装丁、印刷、製本。物質としての出版物の商品化過程の最後の仕上げ段階を理解する。
第1回	出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論Iでは、このうちのAとBを主軸に講義する。出版論Iのオリエンテーション。																												
第2回	出版とはなにか。出版の歴史1。口承から文字での伝達へ。文字が人の思考にもたらした変化。																												
第3回	出版の歴史2。写本から印刷へ。グーテンベルグは何を成し遂げたのか。メディア論的考察。																												
第4回	出版の歴史3。第二次世界大戦期まで。																												
第5回	出版の歴史4。デジタル化、ネット化以降のあらたな出版概念について考察する。																												
第6回	出版物の多様性。																												
第7回	編集の流れ①編集部の仕事。 ファッション誌での実例1編集部の組織と仕事																												
第8回	編集の流れ②ファッション誌での実例2編集長の仕事																												
第9回	編集の流れ③ 出版における企画の成り立ち。台割の読み方。ノンブルとページの概念の違いなどを学ぶ。																												
第10回	編集の流れ④ フォントの話。																												
第11回	編集の流れ⑤ 誌面・書籍デザインの方法。結果としてのデザインとそのデザインを実践するDTPIについて理解する。																												
第12回	編集の流れ⑥ イラスト、写真。現在の出版はテキスト+ビジュアルから成り立つ。その一方の要素であるビジュアルについて学ぶ。																												
第13回	編集の流れ⑦ 印刷技術。印刷の技術的側面について学ぶ。																												
第14回	編集の流れ⑧ 装丁、印刷、製本。物質としての出版物の商品化過程の最後の仕上げ段階を理解する。																												
成績評価 方法・基準	平常点50点。期末テスト50点。計100点満点で評価する。																												
テキスト																													

参考書	
その他	<p>スケジュールは学生の理解度に応じて変更することもある。授業中にも積極的にPCを使う。授業にはPCを持参すること。</p> <p>以下、参考図書</p> <p>赤木洋一『「アンアン」1970』平凡社 2007年</p> <p>椎根和『popeye物語』新潮社 2008年</p> <p>阪本博『「平凡」の時代』昭和堂 2008年</p> <p>浜崎廣著『雑誌の死に方―“生き物”としての雑誌、その生態学』出版ニュース社 1998年</p> <p>浜崎廣著『女性誌の源流』出版ニュース社 2004年</p> <p>難波功士著『族の系譜学』青弓社 2007年</p> <p>渡辺明日香著『TOKYOファッションクロニクル』青幻社 2016年</p> <p>富川淳子著『ファッション誌をひもとく』北樹出版 2015年</p> <p>吉見俊哉著『メディア文化論 改訂版』有斐閣 2012年</p> <p>藤竹暁・竹下俊郎編著『図説日本のメディア[新版]』NHK出版 2018年</p> <p>川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本高論社2012年</p> <p>日本出版学会『白書出版産業』文化通信社 2010年</p> <p>吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森話社 2017年</p> <p>スコット・ラッシュ ジョン・アール 著 安達智史 監訳 中西真知子・清水一彦・川崎賢一・藤間公太・笹島秀晃・鳥越信吾 訳『フローと再帰性の社会学～記号と空間の経済』2018年, 晃洋書房</p> <p>『出版指標年報』出版科学研究所</p>
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版(現・マガジンハウス)にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	清水 一彦(D-1101)(シミズ カズヒコ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	出版論II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	出版ビジネスの仕組みとデジタル化の現状を理解する																												
授業の概要	出版と世相、出版ビジネス、そして出版のデジタル化を理解する。出版論Iでは触れなかった、出版と世相の関係をおもに戦後のライフスタイル雑誌の成立を軸に学ぶ。また、倫理、法制、ビジネスといった社会・経済的な視点からも出版について論じる。さらに、出版業界が直面しているデジタル化の現状についても講義する。																												
到達目標	出版コンテンツの変容と出版ビジネスの現状を理解すること。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	予習:雑誌、書籍を分析しながら読む習慣を身につける。完成品としての雑誌や書籍から、企画意図や編集方法を逆算する。シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおくこと。およそ100分。 復習:授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。およそ100分。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論IIでは、このうちのBとDを主軸に講義する。出版論IIのオリエンテーション。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>出版の産業構造と現状。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察① 戦後混乱期から1950年代。月刊『平凡』。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察② 1960年代。『平凡パンチ』。若者読者の成立。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察③ 1970年代。『anan』そして『POPEYE』創刊。ライフスタイルの創造。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察④ 1980年代。『BRUTUS』『Hanako』。ライフスタイルの細分化と雑誌の個性化の深化。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>1990年代から現時点までの雑誌と書籍のポジショニング</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>表現の自由と出版。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>著作権の歴史とその仕組み。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>出版ビジネスの現場① 著作権とライツビジネス。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>出版ビジネスの現場② 出版流通。再販委託制、取次、書店。アマゾン。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>出版ビジネスの現場③ 雑誌広告ビジネスの仕組み。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>出版ビジネスの現場④ 本を売るための宣伝の仕組み。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>これまでのまとめ。出版とはなにか。出版の未来。</td> </tr> </table>	第1回	出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論IIでは、このうちのBとDを主軸に講義する。出版論IIのオリエンテーション。	第2回	出版の産業構造と現状。	第3回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察① 戦後混乱期から1950年代。月刊『平凡』。	第4回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察② 1960年代。『平凡パンチ』。若者読者の成立。	第5回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察③ 1970年代。『anan』そして『POPEYE』創刊。ライフスタイルの創造。	第6回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察④ 1980年代。『BRUTUS』『Hanako』。ライフスタイルの細分化と雑誌の個性化の深化。	第7回	1990年代から現時点までの雑誌と書籍のポジショニング	第8回	表現の自由と出版。	第9回	著作権の歴史とその仕組み。	第10回	出版ビジネスの現場① 著作権とライツビジネス。	第11回	出版ビジネスの現場② 出版流通。再販委託制、取次、書店。アマゾン。	第12回	出版ビジネスの現場③ 雑誌広告ビジネスの仕組み。	第13回	出版ビジネスの現場④ 本を売るための宣伝の仕組み。	第14回	これまでのまとめ。出版とはなにか。出版の未来。
第1回	出版のABCD。A=アート。B=ビジネス。C=クラフト。D=デジタル。出版論IIでは、このうちのBとDを主軸に講義する。出版論IIのオリエンテーション。																												
第2回	出版の産業構造と現状。																												
第3回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察① 戦後混乱期から1950年代。月刊『平凡』。																												
第4回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察② 1960年代。『平凡パンチ』。若者読者の成立。																												
第5回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察③ 1970年代。『anan』そして『POPEYE』創刊。ライフスタイルの創造。																												
第6回	雑誌とその読者 若者ライフスタイルマガジンを核に社会との関係性から考察④ 1980年代。『BRUTUS』『Hanako』。ライフスタイルの細分化と雑誌の個性化の深化。																												
第7回	1990年代から現時点までの雑誌と書籍のポジショニング																												
第8回	表現の自由と出版。																												
第9回	著作権の歴史とその仕組み。																												
第10回	出版ビジネスの現場① 著作権とライツビジネス。																												
第11回	出版ビジネスの現場② 出版流通。再販委託制、取次、書店。アマゾン。																												
第12回	出版ビジネスの現場③ 雑誌広告ビジネスの仕組み。																												
第13回	出版ビジネスの現場④ 本を売るための宣伝の仕組み。																												
第14回	これまでのまとめ。出版とはなにか。出版の未来。																												
成績評価 方法・基準	平常点50%。期末試験50%。																												
テキスト																													

参考書	
その他	<p>スケジュールは学生の理解度に応じて変更することもある。授業中にも積極的にPCを使う。授業にはPCを持参すること。 以下、参考図書</p> <p>赤木洋一『「アンアン」1970』平凡社 2007年      権根和『popoeye物語』新潮社 2008年      阪本博『平凡』の時代』昭和堂 2008年      浜崎廣著『雑誌の死に方―“生き物”としての雑誌、その生態学』出版ニュース社 1998年      浜崎廣著『女性誌の源流』出版ニュース社 2004年      難波功士著『族の系譜学』青弓社 2007年      渡辺明日香著『TOKYOファッションクロニクル』青幻社 2016年      富川淳子著『ファッション誌をひもとく』北樹出版 2015年      吉見俊哉著『メディア文化論 改訂版』有斐閣 2012年      藤竹暁・竹下俊郎編著『図説日本のメディア【新版】』NHK出版 2018年      川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社2012年      日本出版学会『白書出版産業』文化通信社 2010年      吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森話社 2017年      スコット・ラッシュ・ジョン・アール 著 安達智史 監訳 中西真知子・清水一彦・川崎賢一・藤間公太・笹島秀晃・鳥越信吾 訳『フローと再帰性の社会学～記号と空間の経済』2018年、晃洋書房      『出版指標年報』出版科学研究所</p>
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版(現・マガジンハウス)にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	清水 一彦(D-1101)(シミズ カズヒコ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	ことばと表現(書きことば)
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	人に読んでもらえる原稿を書くためのトレーニング。																										
授業の概要	マスコミの現場で使える文章力を養うために、徹底的なトレーニングをします。将来、マスコミで活躍したいと考えている学生向けの授業です。毎回、作文の課題を出します。文章を書くための専門性を獲得するためには、知識と実践の両方が必要です。授業は、毎回、アクティブラーニングとなります。																										
到達目標	読者を想定し、その読者が納得する原稿を書けるようになる。																										
準備学習 (予習・復習) の内容	読まなければ、書けません。いい音楽を聴いたことがない人は、作曲ができないのと同じです。おいしい料理をたべたことがなければ、一流のシェフになれません。毎回、本を1冊以上読んでおくこと。また、毎回の課題の原稿を事前に書いておくこと。 したがって、本を1冊読む時間と原稿を1本仕上げるための時間が予習・復習となります。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。																										
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>自己紹介の原稿。原稿用紙の使い方、パソコンの使い方。原稿書きの準備段階。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>他己紹介の原稿。読者を想定した文章を書いてみる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>正確な情報の伝え方。ことばの社会的レベル。ロジック。構造。読者がいる原稿に必要なこと。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5W2H。原稿に織り込むべき基本的情報を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5W2H+<math>\alpha</math>。<math>\alpha</math>とはなにかを知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>書生。写生をするように、ことばで風景を描写する練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>取材1。企画の立て方を学ぶ。ブレインストーミングを練習する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>取材2。事前取材の方法を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>取材3。取材。インタビュー。取材対象にどのようにコミュニケーションするのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>構成。推敲。原稿を書く前、書いた後に必要なステップを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>校正。校閲。正しい情報を伝えているのかを確認する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>書評。自分の嗜好をどうやったら読者に論理的に伝えられるのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス。	第2回	自己紹介の原稿。原稿用紙の使い方、パソコンの使い方。原稿書きの準備段階。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第3回	他己紹介の原稿。読者を想定した文章を書いてみる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第4回	正確な情報の伝え方。ことばの社会的レベル。ロジック。構造。読者がいる原稿に必要なこと。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第5回	5W2H。原稿に織り込むべき基本的情報を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第6回	5W2H+ $\alpha$ 。 $\alpha$ とはなにかを知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第7回	書生。写生をするように、ことばで風景を描写する練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。ブレインストーミングを練習する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第9回	取材2。事前取材の方法を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第10回	取材3。取材。インタビュー。取材対象にどのようにコミュニケーションするのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第11回	構成。推敲。原稿を書く前、書いた後に必要なステップを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第12回	校正。校閲。正しい情報を伝えているのかを確認する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第13回	書評。自分の嗜好をどうやったら読者に論理的に伝えられるのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。
第1回	ガイダンス。																										
第2回	自己紹介の原稿。原稿用紙の使い方、パソコンの使い方。原稿書きの準備段階。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第3回	他己紹介の原稿。読者を想定した文章を書いてみる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第4回	正確な情報の伝え方。ことばの社会的レベル。ロジック。構造。読者がいる原稿に必要なこと。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第5回	5W2H。原稿に織り込むべき基本的情報を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第6回	5W2H+ $\alpha$ 。 $\alpha$ とはなにかを知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第7回	書生。写生をするように、ことばで風景を描写する練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。ブレインストーミングを練習する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第9回	取材2。事前取材の方法を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第10回	取材3。取材。インタビュー。取材対象にどのようにコミュニケーションするのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第11回	構成。推敲。原稿を書く前、書いた後に必要なステップを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第12回	校正。校閲。正しい情報を伝えているのかを確認する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										
第13回	書評。自分の嗜好をどうやったら読者に論理的に伝えられるのかを学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																										

	第14回 エッセイ。これまでの学習のまとめ。自分自身の考えや嗜好、志向を織り交ぜた、さらに読書が読んで楽しい文章を書いてみる。前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。
成績評価方法・基準	課題を50点。 授業への積極的参加度合いを50点。 計100満点で評価します。
テキスト	
参考書	
その他	1回目の授業に出席しないと、この授業は受講できません。授業の性質上、受講人数に制限があります。前期「ことばと表現(書きことば)」だけでも受講できますが、後期「ことばと表現(話ことば)」も受講することが望ましい。 また、学生の学修進捗にあわせて授業を展開するので、シラバスと授業内容がずれることがあります。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版(現・マガジンハウス)にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	清水 一彦(D-1101)(シミズ カズヒコ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	ことばと表現(話しことば)
年度	2019
学校区分	大学
科目群	マスコミ(2・3群)

副題	説得力があるプレゼンテーションができるようになるためのトレーニング。																												
授業の概要	マスコミの現場で使えるプレゼンテーション力を養うために、徹底的なトレーニングをします。将来、マスコミで活躍したい学生向けの授業です。毎回、課題を出します。有効なプレゼンテーションをする専門性を獲得するためには、知識と実践の両方が必要です。授業は、毎回、アクティブラーニングとなります。																												
到達目標	オーディエンスを想定し、そのオーディエンスが納得するプレゼンテーションができるようになる。																												
準備学習(予習・復習)の内容	読まなければ、話せません。いい音楽を聴いたことがない人は、作曲ができないのと同じです。おいしい料理をたべたことがなければ、一流のシェフになれません。毎回、本を1冊以上読んでくること。また、毎回の課題を事前に仕上げておくこと。半期2単位の授業外学習時間は通常200分程度ですが、この授業は学習内容の特性上、それ以上になります。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>自己紹介。他己紹介。プレゼンテーションの導入的トレーニング。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>日常会話とプレゼンテーションの差。ことばの社会的レベルを知り、実践できるようになる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>音声表現での正確な情報の伝え方。文章表現と音声表現の差を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5W2H。5W2H+<math>\alpha</math>。<math>\alpha</math>とはなにかを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>音声表現での描写。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>敬語表現。実際につかえるように訓練する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>取材1。企画の立て方を学ぶ。 取材2。事前取材の方法を学ぶ。前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>取材3。取材。インタビュー。実践的な方法論を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>オーディエンスは誰か。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>構成。推敲。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>パワーポイントをつかったプレゼンテーションの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ビブリオバトル。いかにオーディエンスを巻き込むかの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>物語を語る。</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス。	第2回	自己紹介。他己紹介。プレゼンテーションの導入的トレーニング。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第3回	日常会話とプレゼンテーションの差。ことばの社会的レベルを知り、実践できるようになる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第4回	音声表現での正確な情報の伝え方。文章表現と音声表現の差を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第5回	5W2H。5W2H+ $\alpha$ 。 $\alpha$ とはなにかを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第6回	音声表現での描写。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第7回	敬語表現。実際につかえるように訓練する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。 取材2。事前取材の方法を学ぶ。前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第9回	取材3。取材。インタビュー。実践的な方法論を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第10回	オーディエンスは誰か。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第11回	構成。推敲。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第12回	パワーポイントをつかったプレゼンテーションの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第13回	ビブリオバトル。いかにオーディエンスを巻き込むかの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	第14回	物語を語る。
第1回	ガイダンス。																												
第2回	自己紹介。他己紹介。プレゼンテーションの導入的トレーニング。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第3回	日常会話とプレゼンテーションの差。ことばの社会的レベルを知り、実践できるようになる。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第4回	音声表現での正確な情報の伝え方。文章表現と音声表現の差を知る。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第5回	5W2H。5W2H+ $\alpha$ 。 $\alpha$ とはなにかを理解する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第6回	音声表現での描写。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第7回	敬語表現。実際につかえるように訓練する。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第8回	取材1。企画の立て方を学ぶ。 取材2。事前取材の方法を学ぶ。前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第9回	取材3。取材。インタビュー。実践的な方法論を学ぶ。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第10回	オーディエンスは誰か。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第11回	構成。推敲。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第12回	パワーポイントをつかったプレゼンテーションの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第13回	ビブリオバトル。いかにオーディエンスを巻き込むかの練習。 前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。																												
第14回	物語を語る。																												

前回から今回までの間に読んだ本の内容発表。	
成績評価 方法・基準	課題を50点。 授業への積極的参加度合いを50点。 計100満点で評価します。
テキスト	
参考書	
その他	1回目の授業に出席しないと、この授業は受講できません。授業の性質上、受講人数に制限があります。 なお、後期の「ことばと表現(話しことば)」だけを受講することもできるが、前期「ことばと表現(書きことば)」を受講しておくことが望ましい。なお、学生の学修の進捗を測りながら授業を展開するので、シラバスと授業内容がずれることがあります。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、三井物産、朝日新聞社記者を経て、平凡出版(現・マガジンハウス)にて『POPEYE』『Tarzan』『relax』等を担当経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	廣田 有里(D-1004(ヒロタ ユリ))
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	Webデザイン / Webデザイン論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(・2群)

副題	コンセプトから運用までWeb制作知識を学ぶ																												
授業の概要	インターネットの普及に伴い、様々な情報がWeb ページで伝えられている。今後、社会では情報を受けるだけでなく、発信する側になる力も必要になってくる。 Webは、本や雑誌、テレビ など従来の媒体に比べて複雑な構造をしているため、情報をユーザにとって分かりやすい 形で提示できるようにデザインすることが重要である。中でも、Webサイトで「誰を悩ませたいか」と「どのように提示するか」を考慮する設計をするべきである。 ここでは、Webサイトのデザインを例として、情報をデザインする方法を学ぶ。実際に、自分でテーマを決めてWebサイトをデザインし、構築する演習を行う。																												
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサイトのデザインを例として、情報発信の基本スキルを身につける。 具体的には、以下の3点を習得する。 (1)情報をデザインすることの重要性を学び、設計に生かすことができる。 (2)Webサイトを作成する基本的な技術(HTML・CSS)を習得する。 (3)ユーザビリティを考慮したWebサイトを作成することができる。																												
準備学習(予習・復習)の内容	エドクラテスに掲載されているテキストを見て予習する。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・インターネットの基礎</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>情報をデザインする重要性 Webサイトの目的とデザイン</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>情報の組織化と構造化</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>素材の制作 ～デジタル素材とロゴ素材～</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>素材の制作 ～写真と文字～</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>素材の制作 ～動画～</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>HTMLの基礎</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>CSSの基礎</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>文書要素の制御</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>文字の装飾とフォームの設定</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>CSSを用いたレイアウト</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>Webを構成する言語と規格</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>Webサイトの運用</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>知的財産権</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション・インターネットの基礎	第2回	情報をデザインする重要性 Webサイトの目的とデザイン	第3回	情報の組織化と構造化	第4回	素材の制作 ～デジタル素材とロゴ素材～	第5回	素材の制作 ～写真と文字～	第6回	素材の制作 ～動画～	第7回	HTMLの基礎	第8回	CSSの基礎	第9回	文書要素の制御	第10回	文字の装飾とフォームの設定	第11回	CSSを用いたレイアウト	第12回	Webを構成する言語と規格	第13回	Webサイトの運用	第14回	知的財産権
第1回	オリエンテーション・インターネットの基礎																												
第2回	情報をデザインする重要性 Webサイトの目的とデザイン																												
第3回	情報の組織化と構造化																												
第4回	素材の制作 ～デジタル素材とロゴ素材～																												
第5回	素材の制作 ～写真と文字～																												
第6回	素材の制作 ～動画～																												
第7回	HTMLの基礎																												
第8回	CSSの基礎																												
第9回	文書要素の制御																												
第10回	文字の装飾とフォームの設定																												
第11回	CSSを用いたレイアウト																												
第12回	Webを構成する言語と規格																												
第13回	Webサイトの運用																												
第14回	知的財産権																												
成績評価方法・基準	実習の課題提出(70%)(1～6,13,14回目→到達目標(1)(3)、7～12回目→到達目標(2)を授業内で確認) 筆記試験(30%)(到達目標の(1)(3)を筆記試験で確認)																												

テキスト						
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『入門Webデザイン』		CG-ARTS		
その他	パソコンを持参すること					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	廣田 有里(D-1004)(ヒロタ ユリ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	情報ネットワーク/情報ネットワーク論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	インターネットのしくみとネットワーク社会	
授業の概要	スマートフォンでメールをしたり、インターネットでこれから訪問する会社の情報を調べたりなど、情報ネットワークは私たちの生活に欠かせないインフラになっている。最近では、企業の発信する情報を受けるだけでなく、ブログやTwitter、Facebookを通してユーザ自身が積極的に情報発信することも盛んである。積極的なネットワーク活用には、ネットワークの基本的なしくみや頻繁に出てくる技術用語を理解している必要がある。本講義では、ネットワークの中を情報がどのような形で流れ、どのようなしくみで相手に伝達されるかを解説する。また、ネットコミュニケーションがどのように発達し、生活に利用されているかを学ぶ。	
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の2項目を身に着けることができる。 (1) インターネットの情報伝達のしくみを理解し、簡単なネットワークの診断を行うことができる。 (2) 社会の中で、インターネットがどのように利用されているかを知り、メリット・デメリットを理解した上で適切に利用できるようになる。	
準備学習 (予習・復習) の内容	エドクラテスに掲載されているテキストを見て予習する。	
スケジュール	第1回	オリエンテーション コンピュータとネットワークの発展
	第2回	ネットワークの基礎知識
	第3回	アナログ通信とデジタル通信
	第4回	TCP/IPの基礎
	第5回	プロトコルと階層モデル
	第6回	データリンクの技術
	第7回	IPの機能としくみ-IPプロトコル
	第8回	IPに関する技術
	第9回	トランスポート層の役割-TCPとUDP
	第10回	パケットの経路を決めるルーティングプロトコル
	第11回	インターネットのアプリケーション
	第12回	インターネットにつなぐためのブロードバンドネットワーク
	第13回	情報セキュリティ
	第14回	インターネットによる社会の変化
成績評価 方法・基準	実習の課題提出(60%)(2~11回目の課題→到達目標(1)、1,12~14回目→到達目標(2))を授業内で確認 筆記試験(40%)(到達目標の(1)(2)を筆記試験で確認)	
テキスト		

参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『ネットワークはなぜつながるのか』	戸根勤			
2	『マスタリングTCP/IP 入門編』	竹下隆史、村山公保、荒井透、荻田幸雄				
その他	パソコンを持参すること					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	廣田 有里(D-1004)(ヒロタ ユリ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	eコマースシステム/eコマースシステムI
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	eコマース入門																												
授業の概要	eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大してきており、これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。本講義では、eコマースの基本から、ユーザビリティ、コンテンツ・デザインなどのサイトを構築するための知識、インターネットマーケティングの基本的な技術を学ぶ。																												
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の3項目を身に着けることができる。 (1)eコマースの基本的なしくみ、発展の歴史、関連する法律を理解する。 (2)eコマース形態の1つであるネットショップの企画・制作・運営の手順を理解する。 (3)eコマースを支えるマーケティングの基本を理解する。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	エドクラテスに掲載されているテキストを見て予習する。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション、eコマースとは</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>eコマースのビジネス環境</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>eコマースの位置づけ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>eコマースの動向</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ネットショップの出店形態と特徴</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>電子決済とセキュリティ、法律について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ネットショップの企画</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ネットショップの制作</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ユーザビリティ、デザイン</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>インターネットマーケティング</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ネットショップのプロモーション</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>SEOの説明・実習</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>インターネット広告と販売</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>ネットショップの運用</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション、eコマースとは	第2回	eコマースのビジネス環境	第3回	eコマースの位置づけ	第4回	eコマースの動向	第5回	ネットショップの出店形態と特徴	第6回	電子決済とセキュリティ、法律について	第7回	ネットショップの企画	第8回	ネットショップの制作	第9回	ユーザビリティ、デザイン	第10回	インターネットマーケティング	第11回	ネットショップのプロモーション	第12回	SEOの説明・実習	第13回	インターネット広告と販売	第14回	ネットショップの運用
第1回	オリエンテーション、eコマースとは																												
第2回	eコマースのビジネス環境																												
第3回	eコマースの位置づけ																												
第4回	eコマースの動向																												
第5回	ネットショップの出店形態と特徴																												
第6回	電子決済とセキュリティ、法律について																												
第7回	ネットショップの企画																												
第8回	ネットショップの制作																												
第9回	ユーザビリティ、デザイン																												
第10回	インターネットマーケティング																												
第11回	ネットショップのプロモーション																												
第12回	SEOの説明・実習																												
第13回	インターネット広告と販売																												
第14回	ネットショップの運用																												
成績評価 方法・基準	実習の課題提出(50%)(1~6回目の課題→到達目標(1)、7~9、14回目→到達目標(2)、10~13回目→到達目標(3))を授業内で確認 筆記試験(50%)(到達目標の(1)(2)を筆記試験で確認)																												
テキスト																													

参考書	
その他	パソコンを持参すること
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	廣田 有里(D-1004)(ヒロタ ユリ)
履修開始年次	3年生
単位	2
学期	後期
科目名	eコマースシステムII
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	ECの店長を経験し、eコマースシステムの実際を学ぶ																												
授業の概要	eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大してきている。これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。この講義では、EC運用の流れを学び、eコマースの店舗の立ち上げの実践を行う。																												
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の3項目を身に着けることができる。 (1) eコマースサイトのコンセプトを作成できるようになる。 (2) eコマースサイトの作り方を覚え、コンセプトにあわせたサイトを作成することができる。 (3) 考えたコンセプトやサイトの特徴を、プレゼンを行い相手に伝えることができる。																												
準備学習(予習・復習)の内容	エドクラテスに掲載されているテキストを見て予習する。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション&amp;ECショップのトレンド</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>アイデアの出し方・事例紹介</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>店舗立ち上げ計画－商材を考える</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>店舗立ち上げ計画－サイトコンセプトを考える</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>店舗立ち上げ計画－競合調査</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>店舗立ち上げ計画－システム機能</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>店舗立ち上げ計画－発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>店舗立ち上げ実践－サイトの登録方法</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>店舗立ち上げ実践－カテゴリの作成と登録</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>店舗立ち上げ実践－商材の登録</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>店舗立ち上げ実践－画像の編集と加工</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>店舗立ち上げ実践－画像の利用によるサイトのデザイン</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>店舗立ち上げ実践－共通テンプレートとCSSによるサイトのデザイン</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>店舗立ち上げ実践－発表</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション&ECショップのトレンド	第2回	アイデアの出し方・事例紹介	第3回	店舗立ち上げ計画－商材を考える	第4回	店舗立ち上げ計画－サイトコンセプトを考える	第5回	店舗立ち上げ計画－競合調査	第6回	店舗立ち上げ計画－システム機能	第7回	店舗立ち上げ計画－発表	第8回	店舗立ち上げ実践－サイトの登録方法	第9回	店舗立ち上げ実践－カテゴリの作成と登録	第10回	店舗立ち上げ実践－商材の登録	第11回	店舗立ち上げ実践－画像の編集と加工	第12回	店舗立ち上げ実践－画像の利用によるサイトのデザイン	第13回	店舗立ち上げ実践－共通テンプレートとCSSによるサイトのデザイン	第14回	店舗立ち上げ実践－発表
第1回	オリエンテーション&ECショップのトレンド																												
第2回	アイデアの出し方・事例紹介																												
第3回	店舗立ち上げ計画－商材を考える																												
第4回	店舗立ち上げ計画－サイトコンセプトを考える																												
第5回	店舗立ち上げ計画－競合調査																												
第6回	店舗立ち上げ計画－システム機能																												
第7回	店舗立ち上げ計画－発表																												
第8回	店舗立ち上げ実践－サイトの登録方法																												
第9回	店舗立ち上げ実践－カテゴリの作成と登録																												
第10回	店舗立ち上げ実践－商材の登録																												
第11回	店舗立ち上げ実践－画像の編集と加工																												
第12回	店舗立ち上げ実践－画像の利用によるサイトのデザイン																												
第13回	店舗立ち上げ実践－共通テンプレートとCSSによるサイトのデザイン																												
第14回	店舗立ち上げ実践－発表																												
成績評価方法・基準	実習の課題提出(50%) (1～6回目の課題→到達目標(1)、8～13回目→到達目標(2)を授業内で確認) 課題のプレゼンテーション(10%) (7,14回目の発表→到達目標(3)) レポート課題(40%) (到達目標の(1)(2)をレポート課題で確認)																												
テキスト																													

参考書	
その他	本科目はグループワークが中心となる パソコンを持参すること
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	<a href="#">八木 徹(D-0103)(ヤギ トオル)</a> <a href="#">Zhan Ping(D-1304)(ザンピン)</a>
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	アルゴリズム/アルゴリズム論/データベース演習II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	データ構造とアルゴリズム					
授業の概要	情報処理に必要なアルゴリズムとデータ構造の基本を学ぶ。流れ図による処理の表記を理解したうえで、リスト、ハッシュ、スタック、キュー、ツリーなどのデータ構造、及び探索、ソートなどの基本かつ代表的なアルゴリズムや、その性能の評価について学ぶ。					
到達目標	①制御構造と流れ図について理解できる ②基本的なデータ構造とアルゴリズムを理解して説明できるようになる ③アルゴリズムの特徴と効率が理解できる					
準備学習 (予習・復習) の内容	プログラミング、高校数学などの復習、次回の授業まで前回の授業を理解し、課題を完成すること。					
スケジュール	第1回	アルゴリズムとデータ構造の概要(八木、Zhan)				
	第2回	アルゴリズムの基本と表記方法:制御構造、流れ図、疑似言語(八木)				
	第3回	線形探索(八木)				
	第4回	二分探索(八木)				
	第5回	アルゴリズム記述法の理解と評価関数、Pythonライブラリー(Zhan)				
	第6回	線形モデルと整数モデル、Excelソルバー(Zhan)				
	第7回	効率性の比較: ソーティング(Zhan)				
	第8回	頑健性の比較: 描線アルゴリズム(Zhan)				
	第9回	データ構造1: リスト(八木)				
	第10回	データ構造2: スタック、キュー、ツリー(八木)				
	第11回	ハッシュを用いた探索(八木)				
	第12回	深さ・幅優先探索、及びデータ構造(Zhan)				
	第13回	分枝限定法(Zhan)				
	第14回	ピックデータアルゴリズムの特徴、まとめ(Zhan、八木)				
成績評価 方法・基準	到達目標の①から③については、定期試験により理解度を評価する(60%)。 ②と③について授業中の課題(毎回同点)、集めるコメントシートからも評価する(40%)。					
テキスト						
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN

	1	『アルゴリズムとデータ構造』	石畑 清	岩波書店	1989	
	2	『アルゴリズムとプログラミングの図』	森巧尚	マイナビ	2016	
	3	『アルゴリズムイントロダクション』	T.コルメン他	近代科学社	2012	
その他						
参考URL	1	<a href="#">Zhanが担当する部分(ローカルリンク)</a>				
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の輪講担当の八木教授は、株)富士総合研究所、株)ベストシステムズ、独立行政法人科学技術振興機構技術員としての経験がある。この経験をもとに1,2,3,4,9,10,11,14回の授業で実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 徹(D-0103)(ヤギ トオル) 小原 裕二(D-0705)(オハラ ユウジ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	データベースII/情報文化キャリア演習II
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	データベースとSQLの理解																												
授業の概要	様々なシステムにとってデータベースは必要不可欠なものである。この授業では、データベースを構築する上で必要となる設計の考え方や、SQLを用いたデータベースの操作について学ぶ。																												
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、リレーショナルデータベースとSQLを理解する。具体的には、リレーショナルデータベースの仕組み・データベースの設計手法について知り、具体的なデータベースが設計できるようにし、SQLを用いたデータベースの操作ができるようになることを目標とする。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	予習:エドクラテスに示す資料をあらかじめ読み、不明点を整理すること 復習:毎回の課題に取り組み理解を深める																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>概要:データベースの種類、RDBの仕組みなど</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>データベースの設計1:概念設計(E-R図含む)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>データベースの設計2:論理設計 物理設計</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>正規化について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>データベースの機能:トランザクション、データベースの性能</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>SQLの基礎1:基本文法、SELECT文</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>SQLの基礎2:UPDATE文、DELETE文、INSERT文</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>SQLの基礎3:条件式の作成とWHERE句</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>SQLの基礎4:検索結果の加工</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>データベースの編集1:式と関数</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>データベースの編集2:集計とグループ化</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>データベースの編集3:副問い合わせ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>データベースの編集4:テーブルの結合</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>総合演習:家計簿データベースの作成</td> </tr> </table>	第1回	概要:データベースの種類、RDBの仕組みなど	第2回	データベースの設計1:概念設計(E-R図含む)	第3回	データベースの設計2:論理設計 物理設計	第4回	正規化について	第5回	データベースの機能:トランザクション、データベースの性能	第6回	SQLの基礎1:基本文法、SELECT文	第7回	SQLの基礎2:UPDATE文、DELETE文、INSERT文	第8回	SQLの基礎3:条件式の作成とWHERE句	第9回	SQLの基礎4:検索結果の加工	第10回	データベースの編集1:式と関数	第11回	データベースの編集2:集計とグループ化	第12回	データベースの編集3:副問い合わせ	第13回	データベースの編集4:テーブルの結合	第14回	総合演習:家計簿データベースの作成
第1回	概要:データベースの種類、RDBの仕組みなど																												
第2回	データベースの設計1:概念設計(E-R図含む)																												
第3回	データベースの設計2:論理設計 物理設計																												
第4回	正規化について																												
第5回	データベースの機能:トランザクション、データベースの性能																												
第6回	SQLの基礎1:基本文法、SELECT文																												
第7回	SQLの基礎2:UPDATE文、DELETE文、INSERT文																												
第8回	SQLの基礎3:条件式の作成とWHERE句																												
第9回	SQLの基礎4:検索結果の加工																												
第10回	データベースの編集1:式と関数																												
第11回	データベースの編集2:集計とグループ化																												
第12回	データベースの編集3:副問い合わせ																												
第13回	データベースの編集4:テーブルの結合																												
第14回	総合演習:家計簿データベースの作成																												
成績評価 方法・基準	リレーショナルデータベースの仕組みと設計、SQLの基礎とデータベースの操作に関する総合的な理解を問う定期試験(50%)、リレーショナルデータベースの仕組みとデータベースの設計手法、SQL文の個々の用例に対する知識を問う毎回の課題(30%)、学習意欲(20%)(課題への取り組み姿勢を評価する)を合計して評価する。																												
テキスト																													

八木 徹 担当

参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『スッキリわかるSQL入門』	中山清喬、飯田理恵子	インプレス		
その他	十分に充電したノートPCを持参すること					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の輪講担当の八木教授は、株)富士総合研究所、株)ベストシステムズ、独立行政法人科学技術振興機構技術員としての経験がある。この経験をもとに8~14回の授業で実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	八木 徹(D-0103)(ヤギ トオル)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	情報処理概論／情報処理論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	情報文化(2・3群)

副題	情報処理の基礎、基本的な考え方																												
授業の概要	情報社会において必要となる情報処理の知識について、基礎的な事項を学習する。始めに情報の表現方法とコンピュータの仕組みについて学び、次いでコンピュータにおける問題の解き方、情報の表現方法、オペレーティングシステムとソフトウェア、ファイルシステム、情報システムの構成要素やネットワークの基礎について学ぶ。																												
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」というディプロマ・ポリシーに関連し、コンピュータおよびソフトウェアの基礎知識を修得し、動作原理の基礎を理解する。 そのため、具体的には、以下の点を到達目標とする ①情報処理技術の基礎的な考えを説明できる ②コンピュータの仕組み、問題の解き方、情報の表現方法を理解する ③2進数の計算、基数変換ができる ④コンピュータにおけるソフトウェア・OSの役割を知り、ファイルシステムの基礎を理解する ⑤情報システムの構成要素、ネットワークの基礎について理解する																												
準備学習 (予習・復習) の内容	予習:事前に教科書を読み、不明な語句を調べる。(100分) 復習:授業で学んだ概念を整理し、ノートにまとめる。(100分)																												
スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション(情報処理の概説と学習の進め方)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>コンピュータの仕組み(1)(コンピュータの構成要素)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>コンピュータの仕組み(2)(記憶の仕組み・メモリとHDD)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>コンピュータの仕組み(3)(計算の仕組み・論理回路)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>コンピュータの仕組み(4)(処理の仕組み・CPUの動作)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>問題の解き方(1)(プログラム)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>問題の解き方(2)(アルゴリズム)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>情報の表現(1)(情報量、アナログとデジタル)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>情報の表現(2)(2進数と基数変換)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>情報の表現(3)(文字コード・画像・音声データ)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>ソフトウェアとオペレーティングシステム(OSの基本機能)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>情報システムの構成要素(処理形態と代表的なシステム構成)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>ファイルシステム(ファイル管理の基礎)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>通信ネットワークの基礎とセキュリティ基礎</td></tr> </table>	第1回	オリエンテーション(情報処理の概説と学習の進め方)	第2回	コンピュータの仕組み(1)(コンピュータの構成要素)	第3回	コンピュータの仕組み(2)(記憶の仕組み・メモリとHDD)	第4回	コンピュータの仕組み(3)(計算の仕組み・論理回路)	第5回	コンピュータの仕組み(4)(処理の仕組み・CPUの動作)	第6回	問題の解き方(1)(プログラム)	第7回	問題の解き方(2)(アルゴリズム)	第8回	情報の表現(1)(情報量、アナログとデジタル)	第9回	情報の表現(2)(2進数と基数変換)	第10回	情報の表現(3)(文字コード・画像・音声データ)	第11回	ソフトウェアとオペレーティングシステム(OSの基本機能)	第12回	情報システムの構成要素(処理形態と代表的なシステム構成)	第13回	ファイルシステム(ファイル管理の基礎)	第14回	通信ネットワークの基礎とセキュリティ基礎
第1回	オリエンテーション(情報処理の概説と学習の進め方)																												
第2回	コンピュータの仕組み(1)(コンピュータの構成要素)																												
第3回	コンピュータの仕組み(2)(記憶の仕組み・メモリとHDD)																												
第4回	コンピュータの仕組み(3)(計算の仕組み・論理回路)																												
第5回	コンピュータの仕組み(4)(処理の仕組み・CPUの動作)																												
第6回	問題の解き方(1)(プログラム)																												
第7回	問題の解き方(2)(アルゴリズム)																												
第8回	情報の表現(1)(情報量、アナログとデジタル)																												
第9回	情報の表現(2)(2進数と基数変換)																												
第10回	情報の表現(3)(文字コード・画像・音声データ)																												
第11回	ソフトウェアとオペレーティングシステム(OSの基本機能)																												
第12回	情報システムの構成要素(処理形態と代表的なシステム構成)																												
第13回	ファイルシステム(ファイル管理の基礎)																												
第14回	通信ネットワークの基礎とセキュリティ基礎																												
成績評価 方法・基準	授業中に学ぶ情報処理の知識全般を含み、到達目標の②から③の理解度を問う定期試験60%、個々の技術要素の個別理解を問う小テスト20%、到達目標の①を問う毎回の課題10%、毎回の授業内容の復習課題の提出による学習意欲10%を合計して評価する。																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『最新情報処理概論』	安藤明之	実教出版	2014	<a href="#">978-4-407-33556-9</a>
参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『痛快！コンピュータ学』	坂村 健	集英社		
	2	『コンピュータの仕組みを理解するための10章』	馬場 敬信	技術評論社		
その他	普段からパソコンを積極的に利用し、操作になれておくこと。 情報処理基礎を合わせて履修すること。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	氏原 基余司(D-0503)(ウジハラ キヨシ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	国語
年度	2019
学校区分	大学
科目群	こどもコミュニケーション(2・3群)

副題	国語についての特質とその内容(他の言語との違い等)、指導法等について学ぶ。																												
授業の概要	前半(第1回から第8回)は、国語の重要性とその役割、国語施策の内容を中心に学ぶ。 後半(第9回から第14回)は、幼・小教育のつながりとその関連を踏まえつつ、国語教育に必要な知識・技能が習得できるよう授業を行う。授業形式は、講義を中心とする。																												
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」というディプロマポリシーと関連している。具体的には、以下の3点を目標とする。 1 国語の重要性とその役割について理解し、国語教育の持つ意味を理解する。 2 国語表記の「よりどころ」となっている国語施策(「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「外来語の表記」等)の内容を理解し、身に付ける。 3 国語を教える場合の基本事項(話す・聞く・読む・書く等)を理解し、身に付ける。																												
準備学習(予習・復習)の内容	授業で取り上げる内容について、配布資料などを事前に読み込んでおくこと。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>国語の重要性とその役割</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>子どもの発達段階と国語教育、国語教育の持つ意味</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>漢字と国語施策(「常用漢字表」の社会的な役割を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>学校における漢字教育(学年別漢字配当表、字形指導を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>国語施策「送り仮名の付け方」(基本的な考え方と具体的な運用)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>国語施策「現代仮名遣い」(基本的な考え方、「歴史的仮名遣い」との関係等)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>国語施策「外来語の表記」及び国語施策「ローマ字のつづり方」</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>国語の歴史の変遷(文法・音韻を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>「話す・聞く」の指導の基本(「話す」を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>「話す・聞く」の指導の基本(「聞く」を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>「読む」指導の基本(「文学的な文章」を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>「読む」指導の基本(「説明文・論説文」を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>「書く」指導の基本(「書くことの意味」を中心に)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>「書く」指導の基本(「具体的にどう書かせるか」を中心に) まとめ(これまでの講義を改めて整理し、必要な補足を加える)</td> </tr> </table>	第1回	国語の重要性とその役割	第2回	子どもの発達段階と国語教育、国語教育の持つ意味	第3回	漢字と国語施策(「常用漢字表」の社会的な役割を中心に)	第4回	学校における漢字教育(学年別漢字配当表、字形指導を中心に)	第5回	国語施策「送り仮名の付け方」(基本的な考え方と具体的な運用)	第6回	国語施策「現代仮名遣い」(基本的な考え方、「歴史的仮名遣い」との関係等)	第7回	国語施策「外来語の表記」及び国語施策「ローマ字のつづり方」	第8回	国語の歴史の変遷(文法・音韻を中心に)	第9回	「話す・聞く」の指導の基本(「話す」を中心に)	第10回	「話す・聞く」の指導の基本(「聞く」を中心に)	第11回	「読む」指導の基本(「文学的な文章」を中心に)	第12回	「読む」指導の基本(「説明文・論説文」を中心に)	第13回	「書く」指導の基本(「書くことの意味」を中心に)	第14回	「書く」指導の基本(「具体的にどう書かせるか」を中心に) まとめ(これまでの講義を改めて整理し、必要な補足を加える)
第1回	国語の重要性とその役割																												
第2回	子どもの発達段階と国語教育、国語教育の持つ意味																												
第3回	漢字と国語施策(「常用漢字表」の社会的な役割を中心に)																												
第4回	学校における漢字教育(学年別漢字配当表、字形指導を中心に)																												
第5回	国語施策「送り仮名の付け方」(基本的な考え方と具体的な運用)																												
第6回	国語施策「現代仮名遣い」(基本的な考え方、「歴史的仮名遣い」との関係等)																												
第7回	国語施策「外来語の表記」及び国語施策「ローマ字のつづり方」																												
第8回	国語の歴史の変遷(文法・音韻を中心に)																												
第9回	「話す・聞く」の指導の基本(「話す」を中心に)																												
第10回	「話す・聞く」の指導の基本(「聞く」を中心に)																												
第11回	「読む」指導の基本(「文学的な文章」を中心に)																												
第12回	「読む」指導の基本(「説明文・論説文」を中心に)																												
第13回	「書く」指導の基本(「書くことの意味」を中心に)																												
第14回	「書く」指導の基本(「具体的にどう書かせるか」を中心に) まとめ(これまでの講義を改めて整理し、必要な補足を加える)																												
成績評価方法・基準	授業への取組50%(課題の提出状況及びその内容30%、授業への積極的な参加姿勢など20%)と定期考査の結果50%を総合的に判断して評価する。授業中の態度は重視する。																												
テキスト																													

参考書	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『これからの時代に求められる国語力について』	文化審議会答申			2004
その他	テキストは指定しないが、必要に応じてプリント等を配布し、それをテキスト代わりに用いる。また参考書として挙げた「これからの時代に求められる国語力について」は全員に配布する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、都立高校教諭、文化庁文化部国語課・国語調査官、同主任国語調査官の経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	氏原 基余司(D-0503)(ウジハラ キヨシ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	前期
科目名	こどもと読み聞かせ・児童文学
年度	2019
学校区分	大学
科目群	こどもコミュニケーション(2・3群)

副題	児童文学についての理解を深め、読み聞かせに生かせるようにする。																												
授業の概要	前半(第1回から第8回)は、絵本や童話、児童小説などを読みながら、児童文学に関する基礎的な知識を整理し、子どもの発達とどう関わっていくのかを中心に考察する。 後半(第9回から第14回)は、子どもたちにいかに伝えるかという観点を重視しながら、読み聞かせを行う場合に必要となる知識や技能を身に付けられるよう実践的な授業を行う。 前半、後半ともに、授業形式は演習を中心とする。																												
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」というディプロマポリシーと関連している。具体的には、以下の3点を目標とする。 1 児童文学に関する基礎知識を学び、児童文学の特質を自分の体験を通して理解する。 2 読み聞かせを行う場合に必要な知識や技能を自分の体験を通して学ぶ。 3 読み聞かせという行為を通して、児童文学の持つ力をどう子どもに伝えるかを学ぶ。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	授業で取り上げる作品について、事前に読み込み、内容を把握するとともに繰り返し朗読の練習をしていく。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>児童文学についての概要(児童文学とは何か)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>児童文学の歴史</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>子どもの発達と児童文学</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>児童文学の代表的な作品について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>児童文学の特質(絵本を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>児童文学の特質(童話を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>児童文学の特質(児童小説を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>児童文学を教材とする場合の留意点</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>読み聞かせについての概要(読み聞かせとは何か)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>読み聞かせの持つ効果(幼児期、小学生期などに分けて)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>読み聞かせの実践(絵本・紙芝居を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>読み聞かせの実践(童話を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>読み聞かせの実践(児童小説を中心として)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>効果的な読み聞かせ(読み方の工夫などの再確認) まとめ(これまでの授業内容を改めて整理し、必要な補足を加える)</td> </tr> </table>	第1回	児童文学についての概要(児童文学とは何か)	第2回	児童文学の歴史	第3回	子どもの発達と児童文学	第4回	児童文学の代表的な作品について	第5回	児童文学の特質(絵本を中心として)	第6回	児童文学の特質(童話を中心として)	第7回	児童文学の特質(児童小説を中心として)	第8回	児童文学を教材とする場合の留意点	第9回	読み聞かせについての概要(読み聞かせとは何か)	第10回	読み聞かせの持つ効果(幼児期、小学生期などに分けて)	第11回	読み聞かせの実践(絵本・紙芝居を中心として)	第12回	読み聞かせの実践(童話を中心として)	第13回	読み聞かせの実践(児童小説を中心として)	第14回	効果的な読み聞かせ(読み方の工夫などの再確認) まとめ(これまでの授業内容を改めて整理し、必要な補足を加える)
第1回	児童文学についての概要(児童文学とは何か)																												
第2回	児童文学の歴史																												
第3回	子どもの発達と児童文学																												
第4回	児童文学の代表的な作品について																												
第5回	児童文学の特質(絵本を中心として)																												
第6回	児童文学の特質(童話を中心として)																												
第7回	児童文学の特質(児童小説を中心として)																												
第8回	児童文学を教材とする場合の留意点																												
第9回	読み聞かせについての概要(読み聞かせとは何か)																												
第10回	読み聞かせの持つ効果(幼児期、小学生期などに分けて)																												
第11回	読み聞かせの実践(絵本・紙芝居を中心として)																												
第12回	読み聞かせの実践(童話を中心として)																												
第13回	読み聞かせの実践(児童小説を中心として)																												
第14回	効果的な読み聞かせ(読み方の工夫などの再確認) まとめ(これまでの授業内容を改めて整理し、必要な補足を加える)																												
成績評価 方法・基準	授業への取組(発表等における取組内容、課題の提出状況及びその内容、授業に対する積極的な参加の姿勢など)と定期考査の結果を総合的に判断して評価する。発表等における取組内容については重視する。定期考査(レポート)60%、授業中の発表20%、課題20%。																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『日本児童文学名作集(下)』	桑原三郎・千葉俊二編	岩波書店	1994	<a href="https://www.isbn-international.org/details/9784003114322">978-4003114322</a>
参考書						
その他	授業の最後に、400字程度の文章を書かせ提出する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、都立高校教諭、文化庁文化部国語課・国語調査官、同主任国語調査官の経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	氏原 基余司(D-0503)(ウジハラ キヨシ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	ことばと表現(書きことば)
年度	2019
学校区分	大学
科目群	こどもコミュニケーション(2・3群)

副題	相手に的確に伝わる文章を作成するための基礎・基本																												
授業の概要	自分の考えを正確に相手に伝えるために用いる書きことばについて、その典型的な用例や表現を鑑賞することとおして、文とは何かにはじまり、文章作成に使用する諸符号、表現上の注意といった文章作成の基礎・基本を学ぶ。さらに、文章とは何のために書くのか、文章はなぜ書くのかといった文章の存在意義を理解し、日常の文章や、手紙文、レポート、電子メールといった場面で、自分の考えを文章によって、誤解なく伝えることができることを目指す。																												
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科の「溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」コミュニケーション能力を備える」というディプロマポリシーと関連している。具体的には、以下の3点を目標とする。 ①文章を書くことの意味を理解し、相手や場面・内容に応じた文章が書ける。 ②社会生活で必要となる「文章の作成法」や「メモの取り方」を身に付ける。 ③表現の基礎となる、仮名遣いや送り仮名の付け方など表記の決まりを理解する。																												
準備学習(予習・復習)の内容	テキストの問題をやってくる。授業中に配布するプリント(「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」など)を次の授業までに読んでくる。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>表記の基礎(1):「現代仮名遣い」「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>表記の基礎(2):「送り仮名の付け方」「常用漢字表」「符号の使い方」</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>漢字の基礎知識(1):「漢字の成り立ち」「音と訓」「字体・書体・字形」「筆順」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>漢字の基礎知識(2):「異字同訓の使い分け」「コミュニケーションと漢字」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>文章を書く意味:「コミュニケーションの手段という視点」「話すこととの関係」など</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>優れた表現に学ぶ(1):「小説・詩歌・手紙・感想文」「表現の特質」など</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>手紙(礼状)を書いてみる:「手紙の書式」「電子メールとの違い」など</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>優れた表現に学ぶ(2):「説明文・評論」「組み立て」「事実と意見」など</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>文章の組み立て(1):「文と文章」「段落」「組み立て方の型」「アウトライン」</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>文章の組み立て(2):「悪文を分かりやすく直してみる」「表現上の工夫」など</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>要約の仕方・メモの取り方:「文章の組み立てと要約」「重要な情報のつかみ方」</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>レポート・報告文をまとめる:「事実を伝える」「事実と意見を区別する」</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>自分の主張をまとめる:「伝えるべきことを明確にする」「どう伝えるか(組み立て)」 前期で学んだことの確認とまとめ</td> </tr> </table>	第1回	この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)	第2回	表記の基礎(1):「現代仮名遣い」「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」	第3回	表記の基礎(2):「送り仮名の付け方」「常用漢字表」「符号の使い方」	第4回	漢字の基礎知識(1):「漢字の成り立ち」「音と訓」「字体・書体・字形」「筆順」	第5回	漢字の基礎知識(2):「異字同訓の使い分け」「コミュニケーションと漢字」	第6回	文章を書く意味:「コミュニケーションの手段という視点」「話すこととの関係」など	第7回	優れた表現に学ぶ(1):「小説・詩歌・手紙・感想文」「表現の特質」など	第8回	手紙(礼状)を書いてみる:「手紙の書式」「電子メールとの違い」など	第9回	優れた表現に学ぶ(2):「説明文・評論」「組み立て」「事実と意見」など	第10回	文章の組み立て(1):「文と文章」「段落」「組み立て方の型」「アウトライン」	第11回	文章の組み立て(2):「悪文を分かりやすく直してみる」「表現上の工夫」など	第12回	要約の仕方・メモの取り方:「文章の組み立てと要約」「重要な情報のつかみ方」	第13回	レポート・報告文をまとめる:「事実を伝える」「事実と意見を区別する」	第14回	自分の主張をまとめる:「伝えるべきことを明確にする」「どう伝えるか(組み立て)」 前期で学んだことの確認とまとめ
第1回	この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)																												
第2回	表記の基礎(1):「現代仮名遣い」「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」																												
第3回	表記の基礎(2):「送り仮名の付け方」「常用漢字表」「符号の使い方」																												
第4回	漢字の基礎知識(1):「漢字の成り立ち」「音と訓」「字体・書体・字形」「筆順」																												
第5回	漢字の基礎知識(2):「異字同訓の使い分け」「コミュニケーションと漢字」																												
第6回	文章を書く意味:「コミュニケーションの手段という視点」「話すこととの関係」など																												
第7回	優れた表現に学ぶ(1):「小説・詩歌・手紙・感想文」「表現の特質」など																												
第8回	手紙(礼状)を書いてみる:「手紙の書式」「電子メールとの違い」など																												
第9回	優れた表現に学ぶ(2):「説明文・評論」「組み立て」「事実と意見」など																												
第10回	文章の組み立て(1):「文と文章」「段落」「組み立て方の型」「アウトライン」																												
第11回	文章の組み立て(2):「悪文を分かりやすく直してみる」「表現上の工夫」など																												
第12回	要約の仕方・メモの取り方:「文章の組み立てと要約」「重要な情報のつかみ方」																												
第13回	レポート・報告文をまとめる:「事実を伝える」「事実と意見を区別する」																												
第14回	自分の主張をまとめる:「伝えるべきことを明確にする」「どう伝えるか(組み立て)」 前期で学んだことの確認とまとめ																												
成績評価方法・基準	定期考査50%(「書きことば」に関する表記の知識、文章作成能力などを問う) 毎回提出する文章40%(「その他」を参照のこと) 授業への取組(出席状況・提出物・発言等)10%																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『新しい国語表記ハンドブック』	三省堂編修所	三省堂	2018	<a href="https://www.shinsengado.co.jp/ISBN/9784385211381">978-4-385-21138-1</a>
参考書						
その他	毎回、その授業で「学んだこと・印象に残ったこと・よく理解できなかったこと」などを2点か3点(400~600字程度)にまとめ、提出する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)  
 本科目の担当教員は、都立高校教諭、文化庁文化庁国語課・国語調査官、同主任国語調査官の経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	氏原 基余司(D-0503)(ウジハラ キヨシ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	後期
科目名	ことばと表現(話しことば)
年度	2019
学校区分	大学
科目群	こどもコミュニケーション(2・3群)

副題	相手との関係を円滑に進めるための話し方の基礎・基本																												
授業の概要	コミュニケーションに用いる話しことばについて、日本語としての豊かな生き生きとした表現や、敬語表現、その表現を自分のものとして、自分の言葉で自分の考えや気持ちを的確に表現できるようになることを目指す。発声法、日本語の音韻、アクセントなどについて学ぶと同時に、時代とともに変化する話しことばの魅力や、何のために話すのか、どう話すのかといった話すことの意義を理解し、「ことば」は「思考」の源であることを自覚することで、魅力ある話しことばを求め続ける意識を身に付ける。																												
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科の「溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」コミュニケーション能力を備え」というディプロマポリシーと関連している。具体的には、以下の3点を目標とする。 ①ことばの重要性や話しことばの特質について理解し、社会生活に生かせる。 ②話すことの社会的な意味を理解し、相手や場面・内容に応じた話し方ができる。 ③社会生活で必要となる敬語の基礎・基本を身に付け、使いこなせるようになる。																												
準備学習(予習・復習)の内容	①授業中に配布するプリント等(「国語に関する世論調査」「敬語の指針」など)を次の授業までに読んでくる。 ②学期中に「参考書1」を読む。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>話しことばの特質:「ことばの重要性」「書きことばとの関係」「発音・アクセント」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>文化庁「国語に関する世論調査」(1):「誤用か変化か(ら抜き、さ入れなど)」</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>文化庁「国語に関する世論調査」(2):「間違いやすい慣用句」「敬語」など</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>話すことの意味:「コミュニケーションという視点」「聞くこととの関係」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>分かりやすい話し方を学ぶ(1):「映像(DVD)を通して学ぶ(思いを伝える)」</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>分かりやすく話すために考えること:「話の組み立て」「相手のこと」「発声法」</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>3分間スピーチをやる(1):「自分の思いを伝える」</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>分かりやすい話し方を学ぶ(2):「映像(DVD)を通して学ぶ(説明の仕方)」</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>3分間スピーチをやる(2):「分かりやすく説明する」</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>文化審議会答申「敬語の指針」(1):「敬語とは何か」「敬語の分類」など</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>文化審議会答申「敬語の指針」(2):「マニュアル敬語」「間違いやすい敬語」など</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>文化審議会答申「敬語の指針」(3):「敬語の指針」を理解するための問題演習など</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>後期に学んだことを整理・確認して、今後を生かせるようにする。</td> </tr> </table>	第1回	この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)	第2回	話しことばの特質:「ことばの重要性」「書きことばとの関係」「発音・アクセント」	第3回	文化庁「国語に関する世論調査」(1):「誤用か変化か(ら抜き、さ入れなど)」	第4回	文化庁「国語に関する世論調査」(2):「間違いやすい慣用句」「敬語」など	第5回	話すことの意味:「コミュニケーションという視点」「聞くこととの関係」	第6回	分かりやすい話し方を学ぶ(1):「映像(DVD)を通して学ぶ(思いを伝える)」	第7回	分かりやすく話すために考えること:「話の組み立て」「相手のこと」「発声法」	第8回	3分間スピーチをやる(1):「自分の思いを伝える」	第9回	分かりやすい話し方を学ぶ(2):「映像(DVD)を通して学ぶ(説明の仕方)」	第10回	3分間スピーチをやる(2):「分かりやすく説明する」	第11回	文化審議会答申「敬語の指針」(1):「敬語とは何か」「敬語の分類」など	第12回	文化審議会答申「敬語の指針」(2):「マニュアル敬語」「間違いやすい敬語」など	第13回	文化審議会答申「敬語の指針」(3):「敬語の指針」を理解するための問題演習など	第14回	後期に学んだことを整理・確認して、今後を生かせるようにする。
第1回	この科目で学ぶ内容の概要説明(取り上げる内容、授業の進め方、評価方法など)																												
第2回	話しことばの特質:「ことばの重要性」「書きことばとの関係」「発音・アクセント」																												
第3回	文化庁「国語に関する世論調査」(1):「誤用か変化か(ら抜き、さ入れなど)」																												
第4回	文化庁「国語に関する世論調査」(2):「間違いやすい慣用句」「敬語」など																												
第5回	話すことの意味:「コミュニケーションという視点」「聞くこととの関係」																												
第6回	分かりやすい話し方を学ぶ(1):「映像(DVD)を通して学ぶ(思いを伝える)」																												
第7回	分かりやすく話すために考えること:「話の組み立て」「相手のこと」「発声法」																												
第8回	3分間スピーチをやる(1):「自分の思いを伝える」																												
第9回	分かりやすい話し方を学ぶ(2):「映像(DVD)を通して学ぶ(説明の仕方)」																												
第10回	3分間スピーチをやる(2):「分かりやすく説明する」																												
第11回	文化審議会答申「敬語の指針」(1):「敬語とは何か」「敬語の分類」など																												
第12回	文化審議会答申「敬語の指針」(2):「マニュアル敬語」「間違いやすい敬語」など																												
第13回	文化審議会答申「敬語の指針」(3):「敬語の指針」を理解するための問題演習など																												
第14回	後期に学んだことを整理・確認して、今後を生かせるようにする。																												
成績評価方法・基準	定期考査50%(「話しことば」及び「敬語」についての知識などを問う) 毎回提出する文章30%(「その他」を参照のこと) 授業への取組(出席状況・授業中の発表・発言等)20%																												

テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
		1	『敬語の指針』	文化審議会答申		2007
参考書						
その他	毎回、その授業で「学んだこと・印象に残ったこと・よく理解できなかったこと」などを2点か3点(400~600字程度)にまとめ、提出する。					
参考URL						
画像						
ファイル						

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、都立高校教諭、文化庁文化庁国語課・国語調査官、同主任国語調査官の経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	高橋 克(T-0103)(タカハシ マサル)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	生涯学習論I/生涯学習論
年度	2019
学校区分	大学
科目群	学科共通科目(1群)

副題	生涯学習の現状と課題					
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、広く生涯学習に関する事項について学び検証する。また、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。					
到達目標	生涯学習の意義や方法や施設の現状などを学び、説明できること。					
準備学習 (予習・復習) の内容	生涯学習施設の活動内容の情報を収集しておく。					
スケジュール	第1回	「生涯学習」の位置づけー私たちを取り巻く学習環境ー				
	第2回	「生涯学習」の意義				
	第3回	生涯学習(教育)論:生涯学習(教育)論の理念の出現(諸外国の事例から)				
	第4回	生涯学習と教育(1):生涯学習と家庭教育の動向について				
	第5回	生涯学習と教育(2):生涯学習と学校教育の動向について				
	第6回	生涯学習と教育(3):生涯学習と社会教育の動向について				
	第7回	生涯学習と教育(4):生涯学習と各種教育の連携について				
	第8回	社会教育の概要(1):日本の社会教育の歴史と社会教育の発展過程				
	第9回	社会教育の概要(2):一般的・法制的概念から見た社会教育の対象・範囲				
	第10回	生涯学習の活動と評価(1):学びたいという意欲・意志に基づいた学習の内容、方法、形態について				
	第11回	生涯学習の活動と評価(2):学びたいという意欲・意志に基づいた学習の評価について				
	第12回	生涯学習と関連施設(1):公共図書館の役割と日本的特質				
	第13回	生涯学習と関連施設(2):公民館・コミュニティセンターの役割と歴史的意義				
	第14回	生涯学習と関連施設(3):博物館の現況と種類、博物館活動、教育普及活動などの総合的ネットワーク				
成績評価 方法・基準	定期試験50%、社会教育施設見学レポート30%、提出物・小テスト20%					
テキスト	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1	『生涯学習論 I』	高橋克			
参考書						

その他	前期の日曜日等を利用して社会教育施設見学をおこなう。見学施設までの交通費等は自弁です。
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、県立高校教諭、県立博物館学芸員として学校教育と社会教育の場で教育・研究を実施。その他文化財保護行政に関与した経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	守屋 志保(D-0402)(モリヤ シホ)
履修開始年次	1年生
単位	2
学期	前期
科目名	健康・スポーツ科学
年度	2019
学校区分	大学
科目群	学科共通科目(1群)

副題																													
授業の概要	スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに、現代社会の現状と課題をあげ、コミュニケーション、チームワークなどスポーツを切り口に問題解決する方法を検討する。また、スポーツを健康・体力作りの視点でとらえ、運動生理学やスポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに私たちの生活の中でスポーツや身体運動とどのように関わっていったらいいのかを考察する。																												
到達目標	スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ、身体に対しての気づき、健康に対して適切な知識を身につける。また、グループで活動していく中で、コミュニケーション能力、協調性などのスキルを身につける。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	スポーツへの理解を高めるため、スポーツ観戦を行う。また、実際にスポーツに親しむ。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>文化としてのスポーツのとらえ方</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>現代社会とスポーツ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>球技の理論と実技 基本技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>球技の理論と実技 ゲーム運営の基本</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>球技の理論と実技 ゲーム運営</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>球技の理論と実技 ゲーム運営と評価</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>球技の理論と実技 評価の活用とゲーム運営</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>栄養とスポーツ 栄養の考え方</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>医学とスポーツ 人体の基礎</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>医学とスポーツ 医学知識を活かした健康・体力づくり</td> </tr> </table>	第1回	文化としてのスポーツのとらえ方	第2回	現代社会とスポーツ	第3回	運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方	第4回	運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり	第5回	球技の理論と実技 基本技術の習得	第6回	球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ	第7回	球技の理論と実技 ゲーム運営の基本	第8回	球技の理論と実技 ゲーム運営	第9回	球技の理論と実技 ゲーム運営と評価	第10回	球技の理論と実技 評価の活用とゲーム運営	第11回	栄養とスポーツ 栄養の考え方	第12回	栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり	第13回	医学とスポーツ 人体の基礎	第14回	医学とスポーツ 医学知識を活かした健康・体力づくり
第1回	文化としてのスポーツのとらえ方																												
第2回	現代社会とスポーツ																												
第3回	運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方																												
第4回	運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり																												
第5回	球技の理論と実技 基本技術の習得																												
第6回	球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ																												
第7回	球技の理論と実技 ゲーム運営の基本																												
第8回	球技の理論と実技 ゲーム運営																												
第9回	球技の理論と実技 ゲーム運営と評価																												
第10回	球技の理論と実技 評価の活用とゲーム運営																												
第11回	栄養とスポーツ 栄養の考え方																												
第12回	栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり																												
第13回	医学とスポーツ 人体の基礎																												
第14回	医学とスポーツ 医学知識を活かした健康・体力づくり																												
成績評価 方法・基準	定期試験(50%) 実技への取り組みとチームワークを高めるためのコミュニケーション、リーダーシップ能力(50%)																												
テキスト																													
参考書																													
その他																													

参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)

本科目の担当教員は、第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。



## シラバス参照

教員名	守屋 志保(D-0402)(モリヤ シホ)
履修開始年次	2年生
単位	2
学期	後期
科目名	体育
年度	2019
学校区分	大学
科目群	こどもコミュニケーション(2・3群)

副題																													
授業の概要	感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に気づかせ、それを指導するための技術を学ぶ。																												
到達目標	児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。																												
準備学習 (予習・復習) の内容	前時に具体的に指示する。																												
スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>自身の身体への認識を深める① 人体の特性を体験的に知る</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>自身の身体への認識を深める② 心と体の関係を体験的に知る</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>身体の発育発達① 幼児及び児童を中心とした身体の発達の理解</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>身体の発育発達② 生活習慣及び心の発達(情動知能を含む)の影響</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>運動技能の獲得過程について① 運動技能の獲得理解</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>運動技能の獲得過程について② 運動技能獲得と心(情動知能を含む)の関係</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>球技系の発育発達に応じた指導法① 基本技能の練習と振り返り</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>球技系の発育発達に応じた指導法② ボールを持たない動きとその理解</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>球技系の発育発達に応じた指導法③ ドリルゲームとタスクゲームの実践</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>球技系の発育発達に応じた指導法④ ゲームの進め方の理解</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>体育の指導案作成① 映像記録で学ぶ指導技術</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>体育の指導案作成② 子どもへの言葉かけ(情動知能の発達)に留意した指導案の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>模擬指導 子ども身体発達に留意した指導の実践</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス	第2回	自身の身体への認識を深める① 人体の特性を体験的に知る	第3回	自身の身体への認識を深める② 心と体の関係を体験的に知る	第4回	身体の発育発達① 幼児及び児童を中心とした身体の発達の理解	第5回	身体の発育発達② 生活習慣及び心の発達(情動知能を含む)の影響	第6回	運動技能の獲得過程について① 運動技能の獲得理解	第7回	運動技能の獲得過程について② 運動技能獲得と心(情動知能を含む)の関係	第8回	球技系の発育発達に応じた指導法① 基本技能の練習と振り返り	第9回	球技系の発育発達に応じた指導法② ボールを持たない動きとその理解	第10回	球技系の発育発達に応じた指導法③ ドリルゲームとタスクゲームの実践	第11回	球技系の発育発達に応じた指導法④ ゲームの進め方の理解	第12回	体育の指導案作成① 映像記録で学ぶ指導技術	第13回	体育の指導案作成② 子どもへの言葉かけ(情動知能の発達)に留意した指導案の作成	第14回	模擬指導 子ども身体発達に留意した指導の実践
第1回	ガイダンス																												
第2回	自身の身体への認識を深める① 人体の特性を体験的に知る																												
第3回	自身の身体への認識を深める② 心と体の関係を体験的に知る																												
第4回	身体の発育発達① 幼児及び児童を中心とした身体の発達の理解																												
第5回	身体の発育発達② 生活習慣及び心の発達(情動知能を含む)の影響																												
第6回	運動技能の獲得過程について① 運動技能の獲得理解																												
第7回	運動技能の獲得過程について② 運動技能獲得と心(情動知能を含む)の関係																												
第8回	球技系の発育発達に応じた指導法① 基本技能の練習と振り返り																												
第9回	球技系の発育発達に応じた指導法② ボールを持たない動きとその理解																												
第10回	球技系の発育発達に応じた指導法③ ドリルゲームとタスクゲームの実践																												
第11回	球技系の発育発達に応じた指導法④ ゲームの進め方の理解																												
第12回	体育の指導案作成① 映像記録で学ぶ指導技術																												
第13回	体育の指導案作成② 子どもへの言葉かけ(情動知能の発達)に留意した指導案の作成																												
第14回	模擬指導 子ども身体発達に留意した指導の実践																												
成績評価 方法・基準	授業への取り組み状況を重視した平常点及び試験から総合的に評価を行う。 ① 平常点:毎回授業時に小課題を課し、授業への取り組みと理解度を評価。 ② 試験:授業の内容について、理解しているかという評価と授業の内容から何を考え、どのように発展させたかについて論述する。																												
テキスト																													
参考書																													

その他	
参考URL	
画像	
ファイル	

(記載イメージ・その他欄に記載)  
本科目の担当教員は、第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験がある。この経験をもとにすべてのスケジュールで実務経験を活用した授業を実施する。